

烏帽子会会報

2016年春号 Vol.60



白衣授与 Student Doctor 認定式 集合写真(H28.3.26)

■ 第35回烏帽子会總會のご案内	3p
■ 福岡大学医学部長 就任挨拶	5p
■ 福岡大学副学長 就任挨拶	6p
■ 福岡大学病院長 就任挨拶	8p
■ 福岡大学筑紫病院長 就任挨拶	10p
■ 教授 就任 挨拶	11p
■ 教授 退任 挨拶	16p

福岡大学医学部同窓会

目 次

・ 総会案内				
第 35 回烏帽子会総会のご案内			3
・ 会長挨拶				
国家試験雑感	高 木 忠 博		4
・ 医学部長就任挨拶				
医学部長就任のご挨拶	朔	啓二郎	5
・ 副学長就任挨拶				
福岡大学の医学・医療・健康と福岡大学博多駅クリニック開設	大慈弥	裕 之	6
・ 病院長就任挨拶				
福岡大学病院長の思い～挑戦者たち～	井 上 亨		8
筑紫病院長のご挨拶	向 野 利 寛		10
・ 教授就任挨拶				
教授就任挨拶	坂 田 俊 文		11
教授就任挨拶	和 田 秀 一		12
教授就任挨拶	有 馬 久 富		13
教授就任挨拶	山 本 卓 明		14
福岡大学外科同門会の皆様	長谷川	傑	15
・ 教授退任挨拶				
教授退任挨拶	畝	博	16
教授退任挨拶	中 川 尚 志		17
教授退任挨拶	内 藤 正 俊		18
・ 学会開催報告				
第 13 回日本機能性食品医用学会総会	朔	啓二郎	19
第 29 回日本消化器内視鏡学会九州セミナーを終えて	植 木 敏 晴		20
第 37 回九州手外科学会開催報告	石 河 利 之		21
・ 会員寄稿				
『植木敏晴教授就任をお祝いする 8 回生の会』報告	馬 渡 秀 仁		22
日本抗加齢医学会分科会 第 5 回運動器加齢医学研究会開催の御報告	武 田 淳 也		25
「おうっ、女医！元気？」	藤 尾 加代子		26
・ 募集要項				
研究奨励賞募集要項／在外研修援助金募集要項			29
・ 学生対策報告				
五年生にむけて	徳 重 真 純		30
・ キャンパス便り				
平成 27 年度 烏帽子会賞受賞者名簿			31
第 1 回全国医学生 CPR 選手権大会九州ブロック優勝	波多江 健 伍		31
西医大を終えて	関 千 尋		32
烏帽子会賞を受賞して	中 山 敦 貴		32
全医体洋弓優勝のご報告	柳 邊 崇 志		33
福岡大学アーチェリー愛好会	檜 井 恵 利 菜		34
福岡大学ゴルフ愛好会	安心院 勇 佑		34
福岡大学医学部同窓会 烏帽子会賞褒賞基準			35
・ 訃 報				
重川浩司先生を偲ぶ	井 関 貞 文		36
大川正幸さん、あなたとの友情に感謝して	大 平 明 弘		37
青野 猛先生を偲んで	生 野 慎 二 郎		38
久保先生に捧ぐ	松 本 直 通		38
吉本雅彦君の早逝を悼んで	横 山 桂		39
・ 医局長・医長名簿			40
・ 教育職員人事			41
・ 事務局だより			ウラ
・ 編集後記			ウラ

第 35 回 烏帽子会総会のご案内

総会準備委員 19 回生 佐々木 隆 光

今年の第 35 回 烏帽子会総会は、私たち 19 回生が幹事となって準備を進めています。2016 年 7 月 2 日(土曜日)の 17 時より総会と特別講演、19 時より懇親会をソラリア西鉄ホテル 8 階で予定しています。

総会の特別講演では、「アンガーマネジメント～怒りと上手に付き合おう～」と題して、マナー OJT インストラクター、アンガーマネジメントファシリテーターの根岸由紀江先生を迎え、ご講演をお願いしています。

日常生活や臨床現場において、イラッとする瞬間やどうしてもない怒りの感情に押し潰されそうになる

ことはないですか。この怒りの感情と上手に付き合うための心理トレーニングが「アンガーマネジメント」です。欧米では、近年盛んになってきている人材育成、家庭や職場環境改善、学力向上に結びつける心理技術です。ご講演を通して「アンガーマネジメント」を身につけ、怒りのエネルギーをポジティブに受け止められるようになり、臨床や職場環境が潤滑になれば幸いです。

懇親会では、優秀な研究や学生活動の表彰を予定しています。また、楽しい余興も準備しています。19 回生が幹事をして、楽しい会にしたいと思っています。皆さま、ご参加の程よろしく願いいたします。

第 35 回烏帽子会総会 開催要領

日 時：2016 年 7 月 2 日 (土曜日)
会 場：ソラリア西鉄ホテル 8 階 福岡市中央区天神 2 丁目 2-43
電話 (092) 752-5555
総 会：17 時 総会／講演会開始
演 者：根岸 由紀江 先生
懇 親 会：19 時 懇親会
21 時 30 分／二次会 幹事学年の同窓会
参 加 費：5,000 円



総会準備委員 19 回生代表

ご出席のご返事を、巻頭綴り込みの葉書で 6 月 20 日までにお送り下さい。

会長挨拶

国家試験雑感

烏帽子会 会長 高木 忠博 (1回生 脳神経外科クリニック高木 院長)



今年の国家試験の結果は、何と昨年と変わらない90.7%で全国平均91.5%には少し足りませんでした。現状維持で市内3校では一番良い成績でした。今年の6年

生は、チームワークが大変良くヒョットしたら好成绩が出るかもしれないと期待していましたが、あとチョットでした。

安元教授の熱心な指導により次のステップ100%への足掛かりが着々と確実に出来上がって来ていると思います。学生の意識も徐々に変わり始めている様で6年生全員の国試への足並みも揃い始めて来ていると感じます。

我々福大人は、スタートが少々遅い傾向が昔からある様でスタートへの動機付を工夫すれば福大生の能力からすれば100%の維持も不可能ではない集団と思います。この機会に出来れば教授たちが、三段跳び位の勢いで国試成績を上げて行ける様に我々は全面的に協力して行きたいと思います。国試は、1年

生の頃から学生生活を計画的に過ごして行く動機付を含んだアドバイスをしていく事も必要に為って来ている程年々難しく為っている試験の様です。4年迄に学習への足腰を作って5~6年の大変ハードなスケジュールに耐える自覚と指導をすれば学生は十分に成果を作る能力を持っていると感じます。

謝恩会に出席しますが、卒業生は、必ず福大学生時代は本当に楽しかった!と口を揃えて云います。良い学風が歴史の中で構成されていると感じます。小生の人生でも本当に良い時間でしたし、一生の友人もこの学生時代に作って貰いました。我々の感性を大切に上質な医学部を何とかみんなで力を合わせて作って行きたいものです。今年39回生が卒業し遂に卒業生は、4,019人と4千人台に乗りました。この力を結集したら色々夢が、着実に実現して行けるのではないかと感じます。

それから、最後に為りましたが、先日の熊本地震について、魚返熊本支部長より評議委員会で怪我などに遭った卒業生は居なかったとの報告を受けています。また学生も無事だと聞いています。しかし、熊本県で開業している仲間は90人程になりますので詳細報告は現在待っている状態です。大変な状況であることは間違いないようです。



皆さまの登録を首を長くしてお待ちしております。
もちろん、第2の人生のスタートや、出会いが少なく悩んでおられる方も大歓迎です。
勇気を出してご応募下さい。
同窓会は、皆さまのお役にたち、喜びを分かち合いたいのです。

文責 縁むすび担当理事 田野茂樹 (6回生)



医学部長就任のご挨拶

福岡大学 医学部長 朔 啓二郎 (1 回生 / 心臓・血管内科学教授)



朔 啓二郎
福岡大学 医学部長 略歴

昭和 53 年 3 月
福岡大学医学部卒
昭和 56 年 6 月
米国シンシナティ大学内科(4 年間)
昭和 60 年 4 月
福岡大学病院 内科第二 医員
昭和 60 年 11 月
福岡大学医学部内科学第二 助手
昭和 63 年 4 月
福岡大学病院内科第二 講師
平成 12 年 4 月
福岡大学医学部内科学第二 主任教授
平成 17 年 12 月－平成 19 年 11 月
福岡大学病院副病院長
平成 19 年 4 月－現在
福岡大学医学部心臓・血管内科学
(講座名称変更) 主任教授
平成 25 年 12 月－現在
福岡大学医学部長

日本内科学会認定内科総合専門医、
循環器専門医、日本循環器学会理事、
日本心臓病学会理事、全国医学部
長病院長会議理事
Fellow of American College of Physicians
(FACP)
Fellow of American College of Cardiology
(FACC)

昨年 10 月の役職選挙で 2 期目の医学部長に再選されました。平成 29 年 11 月までの任期ですが、楽しく明るく透明な業務を遂行したいと思います。医学部は医学科と看護学科からなり、教務委員会、教授会、成績会議と成績発表、学部長会議、大学協議会や理事会、その他の会議にも出席が義務になります。毎日の決裁が 13 時から学部長室で執り行われます。学部間協定を韓国やタイの大学医学部と行っている所以对外的な仕事もあります。2 年前、医学部長に選任されたとき、「教授会の多くの先生方の理解がえられるシステム作り」、「百の議論より一つのアクション」を掲げました。学部と病院を一体化した医学教育の取り組みもすすみ、福大病院と筑紫病院の二つの病院の教授の先生方に教授会メンバーに加わっていただきました(規定改正)。国家試験の合格率が向上し、分野別認証に向かって医学部の体制が動き始め、着実に変化が生まれています。白衣授与式、Student Doctor 認定式、卒業式、謝恩会、入学式、学生の海外研修や 1、4、6 年生に対する様々な支援を、烏帽子会の先生方に毎年お願いしています。福岡大学医学部・病院の DNA を共有する皆様との「大学の共創」が、今後の福岡大学医学部の在り方の大切な部分と考えています。病院本館や医学部本館の建て替えなども具体的な提案をする時期にきています。医学部・病院の運営は総合格闘技ですね。今後も、烏帽子会の先生方のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

副学長就任挨拶

福岡大学の医学・医療・健康と福岡大学博多駅クリニック開設

医学・医療担当副学長 大慈弥 裕之 (3 回生 / 福岡大学医学部 形成外科学教授)



大慈弥 裕之
福岡大学 副学長 略歴

1980 年：福岡大学医学部 卒業
防衛医科大学校 皮膚科 (助手)
1981 年：
北里大学病院 形成外科 (レジデント)
1990 年：
福岡大学病院 整形外科 形成外科診療班 (講師)
1996 年：
福岡大学病院 形成外科 (助教授)
1999-2000 年：
Brigham and Women's Hospital
(米国ボストン) 留学
2005 年：
福岡大学病院 形成外科 (病院教授)
2007 年：
福岡大学医学部 形成外科学講座開講 (主任教授)
2013 年：福岡大学病院 (副院長)
2015 年：福岡大学 (副学長)
現在にいたる

【専門領域】

乳房再建術：マイクロサージャリーを用いた乳房再建術
小児形成外科：唇顎口蓋裂、漏斗胸
創傷治癒：バイオフィルム感染、慢性創傷メカニズム
抗加齢医学：顔面老化のメカニズム、加齢性眼瞼下垂症、若返りレーザー治療

【主たる学会活動】

日本形成外科学会：理事、2016 年会長
日本美容外科学会：理事、2011 年会長
日本抗加齢医学会：理事、2015 年会長
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会：理事長、2013 年第 1 回会長
日本マイクロサージャリー学会：評議員
2013 年：日本シミュレーション外科学会会長
2014 年：国際美容外科学会 日本支部長

世界に先駆けて日本は、超高齢化社会に突入しました。医療費は年々増加し、2013 年度には 40 兆円となりました。健康寿命の延伸と医療費抑制が、私たち日本人に課せられた命題です。1973 年の開設以来、福岡大学病院は特定機能病院としての高度先進医療、重度救命救急医療、災害拠点病院の機能を維持発展させてきました。今後、加えて予防医学や健康増進、抗加齢医学、生きがい、地域包括医療といった取り組みも重要になってきます。これらを実践するには、スポーツ科学と栄養学を含めた多職種の専門家によるチームアプローチが必要です。科学的根拠の蓄積と実践、そして教育により社会に広めることが可能となります。

学校法人福岡大学は、医学部、薬学部、スポーツ科学部、人文学部教育・臨床心理学科といった医療・健康系の学部学科を有しています。わが福岡大学の特徴は、これらの学部と福岡大学病院がワンキャンパスにある点です。学部横断的な研究、教育、医療の連携がとりやすい環境にあります。この恵まれた資源を活用することで、将来を見据えた医療・健康モデルを提案でき、社会に寄与するとともに福岡大学の価値を発信することができます。

すでに福岡大学病院内では、メディカルフィットネスセンターが設置され、学部を融合した予防運動医療が行われています。そこでは医師と健康運動指導士（スポーツ科学部出身）が合同で患者さんの治療や病気の予防にあたっています。今年 4 月 21 日に KITTE 博多に開設した福岡大学博多駅クリニックでは、この取り組みをさらに発展させる予定です。九州の玄関口となる博多駅で展開することで、運動療法や予防医学の意義を広く社会に認知してもらおうと考えています。

福岡大学博多駅クリニック（以下クリニック）の紹介をします。クリニックは JR 博多駅に隣接する KITTE 博多の 8 階にあります。2020 年に七隈線が延伸し、福岡大学病院と地下鉄で直結する予定です。本施設では、福岡大学ならではの高度で高品質な医療を、九州の玄関口となる博多駅で展開します。診療の柱は、女性医療、先進的予防運動医療、専門外来、国際医療です。

約 330 坪の施設内には、女性診療ユニットと総合診療ユニットがあります。女性診療ユニットは、女性医師が女性患者を診療する施設となっていて、女性のプライバシーに配慮されています。乳腺や婦人科の診療や検診、美容医療（美容皮膚科・美容外科）、泌尿

器科、肛門科をそれぞれの専門医が診療します。超音波検査やマンモグラフィー検査も女性医師や女性技師が行います。心の外来（精神科）も設置されます。

ロボットスーツ HAL[®]を用いたリハビリテーションは、本学スポーツ科学部との連携により運用されます。これは神経難病や脳卒中の後遺症、整形外科領域のリハビリテーションに応用されます。

トラベル（渡航）外来も設置しました。交通の拠点である博多駅にふさわしい専門外来として、諸外国の医療情報の提供や予防接種を行います。

フットケア外来は、スポーツ、靴、歩き方、加齢、糖尿病、動脈硬化症などにともなって生じる足や爪の症状を持つ患者さんを、総合的に診療する専門外来です。専門医、専門看護師、理学療法士、健康運動指導士などが連携して総合的に診療やケアを行います。

福岡大学病院と福岡大学筑紫病院の教授を中心とした専門外来も行います。循環器内科、腫瘍・血液内科、消化器内科、呼吸器内科、糖尿病内科、整形外科、形成外科、泌尿器科、物忘れ外来、小児発達発育外来、などです。教授外来では、紹介患者の診療やセカンドオピニオンを行います。

国際医療は在住外国人、インバウンド外国人を対象とした医療です。博多駅クリニックでは、総合診療、健康診断・レディースクリニック、ロボットスーツ HAL[®]を用いたリハビリテーションを行う予定です。将来的には、福岡大学病院や筑紫病院での専門医療につなげてゆく予定です。国際医療は、半年ほどかけて診療体制や言語支援、各国との連携体制を整えます。

本施設には、80列 CT やデジタルマンモグラフィー、一般撮影レントゲン、超音波診断装置を設置しています。CT やマンモグラフィーの検査画像は、両病院の放射線専門医が遠隔診断する仕組みとなっています。また、この放射線科医による読影レポートは、近隣の医療機関でも閲覧が可能です。セキュリティを確保した形で、クリニックのウェブページから閲覧できます。このシステムは、地域の医療機関にとって利便性が高く、地域医師会との連携強化に貢献できると考えています。

クリニックは医療だけでなく、博多駅の地の利を活かした教育・研究も考えています。生活習慣病・抗加齢医学のための運動療法や栄養指導、市民を対象にした健康セミナーなどのイベント企画、医療者向けの講演会を計画しています。

福岡大学博多駅クリニックは医療・健康、教育、研究の場として、全学で活用することにより、この施設を福岡大学の情報発信の拠点にしたいと考えています。福岡大学ブランドイメージの向上に寄与することが、この施設の目標です。衛藤卓也前学長は、福岡大学活性化の起爆剤となることを願って本事業を決断下さいました。山口政俊現学長も同じ気持ちで支援をいただいています。私は、本事業の責任者として、ぜひとも事業を成功させ福岡大学の医療・健康部門を発展に導きたいと願っています。

皆様の暖かいご支援をお願い申し上げます。

福岡大学博多駅クリニック

URL: <https://www.fumc.fukuoka-u.ac.jp>

博多駅にお越しの際は、ぜひお立ち寄り下さい。



福岡大学博多駅クリニック スタッフ



運動療法室

福岡大学病院長の思い ～挑戦者たち～

福岡大学病院 病院長 井上 亨 (特別会員 / 脳神経外科学教授)



医学部 中庭にて

井上 亨
福岡大学病院 病院長

- 1981 宮崎医科大学卒業
九州大学医学部脳神経外科
入局
- 1987 米国フロリダ大学脳神経
外科リサーチフェロー、
微小脳神経外科解剖の
研究 (ロートン教授)
- 1990 飯塚病院脳神経外科
- 1992 九州大学医学部脳神経外科
病棟・外来医長
- 1995 九州医療センター脳神経
外科医長、2001年より脳
血管センター長
- 2008 福岡大学医学部脳神経外科
主任教授
- 2011 - 2013
福岡大学病院副病院長
- 2015 福岡大学病院病院長就任

2015年12月1日より福岡大学病院長を拝命した脳神経外科の井上です。2008年4月に、脳神経外科主任教授として福岡大学に赴任しました。医学部中庭に美しく咲き誇る桜を観るのも今年で9回目です。病院職員を代表し、本館建て替えに真剣に取り組んでいる「挑戦者たち」の思いを述べさせていただきます。

烏帽子会の皆さんは2000年3月から2005年12月までNHKで放映されたPROJECT X ～Challengers～という番組を覚えておられると思います。終戦直後から高度経済成長期に様々な分野において直面した難題をどのように日本人が克服していったのかを紹介した番組です。中島みゆきが歌ったオープニングテーマの「地上の星」とエンディングテーマの「ヘッドライト・テールライト」は大ヒットし私たち世代の心を打ちました。今、福岡大学病院は本館建て替えという大きな課題に取り組んでいます。福岡市の主な病院が耐震構造を備えた新病院となる中で、昭和48年に建築された病院本館の老朽化は進み耐震構造基準をみたしておらず早急な建て替えが必要となっています。平成18年に昭和設計により行われた耐震診断では、「地震の震動、衝撃に対して倒壊及び崩壊する危険性が高い」と判断され、全面建て替えが望ましいと判断されました。本学には必要性は理解していると言われながら、建て替えの時期も決まらず、新病院の構想も出来ずに10年が経過しています。最近10ヶ月の間に、病院本館では錆びついた水道管の漏水事故が41件発生しました。その修理費は膨大です。福岡大学病院には、およそ900名の入院患者さんと700名の医学生に加えて2249名（医師592、研修医76、看護師999、医療技術職員280、事務員168、アルバイト83、ボランティア51）の病院職員が働いています。その他にも患者家族や面会人を合わせると、いかに多くの人々が自然災害による危険にさらされているのか恐怖すら感じます。平成24年には、厚生労働省が災害拠点病院指定要件に「病院機能を維持するために必要な全ての施設が耐震構造を有することが望ましい」と通達しています。近々、厚生労働省より災害拠点病院の耐震構造が公表される可能性があります。その時は、福大病院は災害拠点病院として致命的な打撃を受けます。現在、様々な専門分野、役職でご活躍されている烏帽子会同窓会の皆さんの力をかりて、一刻も早く建て替えに向けて前進しなければならないと実感した病院長就任4ヶ月です。

最近、大学病院には特定機能病院や災害拠点病院を維持するために様々な難題が課せられています。7:1病床を維持することでさえ容易ではありません。臨床・研究・教育を行うに相応しい大学病院を維持するために私たちは様々なプロジェクトを立ち上げています。紹介患者を絶対に断らない医療、トリアージナースの配置、在院日数短縮、

全職種で実力の伴った昇級、魅力ある病院食、病院経営戦略室の設置、国際医療の推進などです。ヘッドライト・テールライトの歌詞にある「旅は終わら～ない」を胸に、増え続ける仕事に負けられないように職員全員で取り組んでいきたいと思っています。同窓会の皆様にはこれまでも増してご指導ご支援をどうぞ宜しく御願ひ申し上げます。



筑紫病院長のご挨拶

福岡大学 筑紫病院長 向野 利寛 (眼科教授)



向野 利寛
福岡大学筑紫病院長 略歴

- S49.3 鳥取大学医学部医学科
卒業
- S49.6 九大眼科入局
- S54.4 鳥取赤十字病院眼科長
- S58.4 産業医科大学眼科
- H2.4 福岡大学医学部助教授
- H2.10 福岡大学筑紫病院部長
助教授
- H18.4 同上教授
- H25.12 ~
福岡大学筑紫病院長
- 現在に至る

福岡大学筑紫病院長の向野です。昨年12月より病院長二期目を務めています。私は2年前に65歳選択定年制を利用して、大学を辞めるつもりでした。人は何歳まで生きるか分かりません。しかし、自分で自由に動けるのは75歳までだろうと考え、10年間は自由に過ごしたいとの思いからです。私は旅が大好きです。大学を辞めたら、まず、自分の車で桜前線と共に日本を縦断しようと思っていました。しかし、病院長を務めることになり、2年延ばすこととしました。「病院長は一期しかしない」と周囲にも話していました。ところが、なぜか二期目をする事になりました。その楽しみは更に2年先になりました。春が近づくと、日本地図を見ながら、桜前線と共に北上する旅を頭の中でしています。少々残念ですが、選んでくれた人たちのためにも病院長らしく業務をこなしていきたいと思っています。

病院長一期目の2年間で病院業務、事務との関わり、大学のシステムなど、多くのことを学びました。

筑紫病院の建物が建て変わり、福岡大学メディカルゾーンの一員として恥ずかしくない病院となりました。しかし、近年の厳しい医療情勢の中で筑紫病院は新築に伴う建物の減価償却をしていかねばなりません。早期に病院経営を黒字基調に持っていきたいと、ない知恵を絞っている毎日でもあります。ある女性医師活用のための講演会で「医師が多くてつぶれた病院はない。つぶれるのは医師が不足した病院だ」と聞きました。筑紫病院は福大病院に比べて、医師数がまだ少なくなかなか忙しい病院です。その中で、大学病院としての役割である研究・教育も行っています。また、福大病院では行えない地域医療、地域医療経済など地域と関わりある学問、研究を実践する場でもあります。

現在、筑紫病院は医学部生のみでなく、福岡大学の薬学部生、医学部看護学科生や筑紫地区の他の看護学校等からの実習も引き受けています。2月に山口学長はじめ、大学執行部の方々から筑紫病院に来られました。建物は新しく以前に比べて広くなりましたが、医師のいる場所や研究室が狭いということも実感して頂けたと思っています。これから、大学執行部と議論を重ねつつ病院経営を黒字にして、医師の数もさらに増やしたい。また、女性医師や看護師が働きやすく、職員みんながのびのびと楽しく仕事ができる場が作ればと考えています。

筑紫病院の新築にあたって、大学、医学部同窓会の方々から、多くの寄付を頂きました。同窓会の皆様の大学への貢献度は非常に高いと感じています。ただ、最近では福岡大卒業生の師弟もなかなか福岡大に入学できないとの話も聞きます。これから親も福大卒、子供も福大生といった人たちが増えればいいなと思っています。慶応ボーイという言葉があります。福大っ子(ちょっと格好悪いかも)、もしくは福大ボーイという言葉が出来るように願っています。

福岡大学筑紫病院は七隈から遠いため、福岡大学の一部であることが忘れられがちではとの思いがあります。しかし、七隈地区から離れているからみえることもあります。今後も筑紫病院は福岡大学の一員として、筑紫地区での存在感を高めつつ医学部、福大病院はもとより薬学部など他の学部とも連携していきます。卒前、卒後教育でも救急医療、primary careを中心として他の大学病院ではなかなか経験できない疾患について体験できる場でもあり、福大病院とは違った形の大学病院、一線の臨床現場に即した診療・研究および学生教育・卒後教育を行える大学病院としての体制をしっかり作り上げてゆく決意です。さらなるご支援、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

教授就任挨拶

福岡大学医学部 耳鼻咽喉科学 主任教授 坂田 俊文 (10 回生)



坂田 俊文
主任教授 略歴

- 1987 年 福岡大学医学部 卒業
- 同年 福岡大学医学部
耳鼻咽喉科学教室入局
- 1994 年 福岡大学大学院 修了
医学博士
- 2006 年 福岡大学医学部
耳鼻咽喉科 講師
- 2009 年 福岡大学筑紫病院
耳鼻いんこう科 准教授
- 2014 年 福岡大学筑紫病院
耳鼻いんこう科 教授
- 2016 年 福岡大学医学部
耳鼻咽喉科 教授

所属学会

- 日本耳鼻咽喉科学会
- 日本聴覚医学会
- 日本耳科学会
- 日本鼻科学会
- 日本気管食道科学会
- 日本アレルギー学会
- 日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会
- 日本音響学会

* 専門は聴覚学で、中でも耳鳴、聴覚過敏、耳閉感などの聴覚異常感

- 日本耳鼻咽喉科学会専門医
(第 7753 号) 平成 5 年 4 月 1 日
- 日本気管食道科学会専門医
(第 914 号) 平成 20 年 11 月
- 補聴器相談医 (第 2578 号)
平成 18 年 4 月 11 日

私は 1987 年に本学を 10 回生として卒業し、そのまま耳鼻咽喉科に入局しました。父は広島県福山市で耳鼻咽喉科を開業していましたが、地元には戻る気持ちがなかったので、そのまま母校のお膝元で医師生活をスタートしました。当時は大学病院で研修することに何の疑問も持たなかった時代でした。

入局時の耳鼻咽喉科は初代教授の曾田豊二先生が主宰されていました。剣術に長けた浪人のような先生が多く在籍し、厳しいながらも自由な気風の中、臨床面では 1 回生の江浦陽一先生や指導医の吉峰晃一先生、研究面では白石君男先生や木村謙一先生の指導を仰ぎながら実績を紡ぐことができました。今でいう凹んだ状態に陥ることもありましたが、蒲池紳一郎先生や安元和彦先生のタダ飯効果ですぐに回復したものでした。当時は大学間の交流が今ほど活発ではなかったので、休みを利用しては関東や関西の手術手技講習会に足繁く通った時期もありました。その後も二代教授の加藤寿彦先生から頭頸部腫瘍の手術手技を、三代教授の中川尚志先生からは小児難聴の診療や医局のマネジメントを学びました。2008 年には福岡大学筑紫病院に異動し、2014 年に耳鼻いんこう科教授を拝命しました。そして 2016 年 4 月 1 日より福岡大学医学部に所属替えとなりました。これまでにお世話になった皆様のご支援で、新たな役職と責任を授かったことに深く感謝致します。

耳鼻咽喉科は一部の大学を除き、少人数で多くの患者を診療せねばなりません。また、感覚器を扱う関係上、外科的アプローチや内科的アプローチ以外に精神医学的な診療も必要となります。さらにもう一つの大切な柱として癌診療もありますので、頭頸部という狭い守備範囲ではあっても多様性に満ちています。このようなことから、大学病院といえども施設単独では診療を完遂できないことがあります。現在、福岡大学をはじめ、九州大学、久留米大学とも、耳鼻咽喉科では生え抜きの教授が采配を振っています。3 人は同世代で旧知の仲でもあることから、大学間の交流と診療連携が良好に維持されています。これは若手医師の教育上も望ましいシステムと言えます。このような好条件を最大限に活用しながら、福岡大学の存在価値をこれまで以上に高める診療・研究体制を整え、さらに未来を担う学生の教育にも励む所存です。

教授就任挨拶

福岡大学医学部 心臓血管外科学 主任教授 和田 秀一 (13 回生)



和田 秀一
主任教授 略歴

- 1984 年 福岡大学医学部入学
- 1990 年 福岡大学医学部卒業
広島大学 第一外科入局
- 1991 年 金沢医科大学 小児外科
- 1993 年 呉共済病院 一般外科
- 1995 年 県立広島病院 胸部外科
- 1997 年 広島大学 心臓血管外科
- 2000 年 フランス ボルドー大学
心臓血管外科
- 2002 年 尾道総合病院 心臓血管
外科
- 2005 年 川崎幸病院 大動脈センター
- 2011 年 福岡大学心臓血管外科

平成 28 年 4 月 1 日付で、心臓血管外科学教授を拜命いたしました、和田秀一と申します。まずは自己紹介をさせていただきます。私は、平成 2 年に福岡大学医学部を卒業(13 回生)いたしました。卒業後は広島大学と関連施設で小児外科、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科の 7 年間の外科系研修を行いました。最終的に専門領域を決定する際は、手術はさせてもらえず、術後管理で家に帰れなかった心臓血管外科を何故か専門に選んでしまいました。研究としては広島大学で人工心臓や補助循環の研究を行い、平成 12 年に学位を取得しました。そして、学位取得と同時にフランスのボルドー大学心臓血管外科に 2 年間の臨床留学をしました。帰国後は、広島大学で助手として働いた後に、広島県の尾道総合病院に心臓血管外科の新規開設のため責任者として出向しました。平成 17 年からは大動脈瘤手術の日本のトップ施設である、神奈川県川崎幸病院大動脈センターに異動いたしました。そこでは 6 年間働き、大動脈手術をライフワークとするようになりました。縁あって田代教授からお誘いをいただき、平成 23 年から福岡大学に准教授として採用していただき現在に至ります。

人生は選択の連続である。というシェークスピアの言葉があります。私は人生の大きな選択時に、大変そうなものを選んでしまうという習性があります。簡単に手に入るものはそれだけの魅力しかなく、苦勞して得られたものに本当の価値があると考えています。浅学菲才ではありますが、その気持ちにより今まで仕事を続けられたと思っています。後輩に助言を求められた際には、いつもその様に指導しております。また、自分が良かったと思うこと(学位取得、留学、他施設への研修)などは、できる限り応援していきたいと思っています。

出る杭は打たれる。という言葉がありますが、私たち福岡大学の心臓血管外科は、とにかく出て行って、打っていただき成長して一流施設になっていくしかないと思っています。そして、少しでも福岡大学の発展に貢献出来ればと思っています。これからも、ご指導、ご鞭撻を賜りますようによろしくお願い申し上げます。

教授就任のご挨拶

福岡大学医学部 衛生・公衆衛生学 主任教授 有馬 久富 (特別会員)



有馬 久富
主任教授 略歴

- 1993年 九州大学医学部卒業
- 1993年 九州大学第二内科に入局
- 2003年 シドニー大学ジョージ
国際保健研究所
客員研究員
- 2006年 九州大学環境医学分野
助教
- 2009年 シドニー大学医学部
講師
- 2011年 シドニー大学医学部
准教授
- 2014年 滋賀医科大学
アジア疫学研究センター
特任教授
- 2016年 福岡大学医学部
衛生・公衆衛生学
主任教授

2016年4月1日より守山正樹先生の後任として、衛生・公衆衛生学主任教授を拝命いたしました有馬久富と申します。この度は、伝統ある福岡大学医学部同窓会に入会させていただくことを大変光栄に思います。どうかよろしく願い申し上げます。

私は、1993年に九州大学医学部を卒業後、第二内科に入局しました。臨床研修をしながら、「治療の根拠となるエビデンスがどのように作られているか」に興味を持つようになり、久山町における疫学研究に従事して、そこで学位を取得しました。2003年からはシドニー大学へ留学し、臨床試験に従事しました。2006年からは九州大学環境医学分野で助教をつとめさせていただきましたが、2009年に再びシドニー大学に呼び戻され、講師として正式採用されました。2011年に准教授へ昇進し、INTERACT2試験などの国際共同大規模臨床試験に従事しました。2014年からは日本へ戻り、滋賀医科大学アジア疫学研究センターに特任教授として着任するとともに、社会医学公衆衛生学部門教員を併任し、医学部における公衆衛生学教育に従事してまいりました。

福岡大学着任後は、M3の公衆衛生学の講義および実習を担当しております。医学教育では、Public Health Mindをもって地域医療に貢献することのできる医師の養成を目指します。具体的には、地域の保健・医療・福祉全体を理解して対策を立案するために必要な疫学的・公衆衛生学的思考を身につけるための講義と実習を行います。実習においては、問題立脚型学習および地域保健・産業保健の現場体験を推進します。

研究面では、疫学・臨床研究の専門家として、わが国における疾病のさらなる予防および新たな治療法の確立のために尽力していきたいと思っております。福岡大学独自の疫学研究を立ち上げるとともに、臨床の先生方と連携することにより、臨床の現場で役立つ質の高いエビデンスを福岡大学医学部から発信していきたいと思っております。

今後は、福岡大学の医学教育をさらに充実させるとともに、福岡大学医学部全体の高い研究レベルを維持向上させるべく、全力を注ぐ所存です。どうかよろしく願い申し上げます。

教授就任のご挨拶

福岡大学医学部 整形外科学 主任教授 山本 卓明 (特別会員)



山本 卓明
主任教授 略歴

昭和 40 年(1965)3 月 17 日生

平成 2 年(1990)3 月

九州大学医学部卒業

平成 2 年(1990)6 月

九州大学医学部附属病院医員
(研修医)(整形外科)

平成 4 年(1992)4 月

九州大学大学院医学系研究科
外科系専攻入学

平成 9 年(1997)4 月

日本学術振興会特別研究員

平成 9 年(1997)4 月

Hospital for Special Surgery
(NY, USA)訪問研究員

平成 12 年(2000)7 月

飯塚病院整形外科医師(医長代理)

平成 13 年(2001)4 月

九州大学大学院医学研究院助手
(整形外科学分野)

平成 22 年(2010)8 月

九州大学病院講師(整形外科)

平成 23 年(2011)3 月

九州大学病院診療准教授(整形外科)

平成 24 年(2012)3 月

九州大学医学研究院 整形外科
人工関節・生体材料学講座 准教授

平成 27 年(2015)4 月

九州大学病院リハビリテーション部
准教授

平成 28 年(2016)4 月

福岡大学医学部整形外科 主任教授

平成 28 年 4 月 1 日付で、内藤正俊教授の後任として福岡大学整形外科主任教授を拝命致しました。当教室は、福岡地区の医療の中心として数多くの診療実績をあげてきたのみならず、故高岸直人初代教授の肩関節、故緒方公介教授の膝関節、内藤正俊教授の股関節など、世界トップレベルの臨床および研究成果をあげてきております。これらの実績を全領域において確実に継承し、その上で、これまで私が取り組んで参りました股関節における特発性大腿骨頭壊死症の治療、そしてスポーツ整形への取り組みを通じて、少しでも教室の発展に貢献したいと考えております。

特発性大腿骨頭壊死症は、昭和 50 年に厚生省により難病に指定され、それ以降研究班が組織され、国をあげて病態研究そして治療法の開発が進められてきました。ステロイド剤投与に関連して発生することが多い本疾患は、その病態解明、予防法開発が待たれる疾患の一つであります。私も 24 年間連続して研究班に参画し、現在は、日本医療研究開発機構 (AMED) 管轄の病態研究班班長として、疫学解析、ゲノム解析、病態解析、そして予防法開発に取り組んでおります。

特に、予防法開発に関しましては、SLE 新患患者に対してステロイド剤投与開始と同時に、これまでに予防効果が報告されているスタチン製剤 (リバロ)、抗血小板薬 (プラビックス)、抗酸化剤 (ユベラ)、の 3 剤を併用投与する予防にむけた臨床試験が、全国 10 施設が参加する先進医療として厚生労働省より承認され、既に一部施設において開始されております。世界初の骨壊死発生の予防効果が得られるよう、しっかりとした研究を行って参る所存です。

福岡大学整形外科は、開講 44 年を迎える伝統ある教室です。この伝統を確実に継承し、さらに今後激変する 21 世紀の医療を見据え、関連施設との人事交流をより活発円滑にし、地域医療機関とより一層の信頼関係を構築し、福大整形外科が、日本有数の教室に発展するよう、全力で、そして粉骨砕身の決意で取り組んで参る所存でございます。どうぞご同門の先生方におかれましては、今後とも変わらぬご支援、ご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

福岡大学外科同門会の皆様

福岡大学医学部 消化器外科学 主任教授 長谷川 傑 (特別会員)



長谷川 すくろ
傑
主任教授 略歴

平成 5 年：京都大学医学部卒業
 平成 5 年：京都桂病院研修医
 平成 6 年：京都大学医学部附属病院
 外科研修医
 平成 7 年：天理よろづ相談所病院
 腹部一般外科
 シニアレジデント
 平成 12 年：東京大学医科学研究所
 ヒトゲノム解析センター
 研究生
 平成 15 年：京都大学消化器外科
 助手
 平成 17 年：京都大学消化管外科
 助手
 平成 19 年：天理よろづ相談所
 腹部一般外科 医員
 平成 22 年：京都大学消化管外科
 講師

平成 28 年 4 月 1 日付けで山下裕一教授の後任として福岡大学消化器外科に着任致しました長谷川傑と申します。私は京都大学を平成 5 年に卒業し、奈良県の天理よろづ相談所病院などで外科の研修を行い、その後東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センターにて基礎研究（胃がんの遺伝子発現解析）を行って学位を得ました。平成 17 年よりは京都大学消化管外科、坂井義治教授の下で下部消化管の腹腔鏡手術の修練を行い、消化器癌特に大腸癌に関連する腹腔鏡手術を中心とした教育および臨床研究を行って参りました。この度伝統ある福岡大学消化器外科の教室運営を担当させて頂きますこと、大変光栄に感じるとともにその責任の重さに身が引き締まる思いで一杯です。

私の目指す教室の理念として以下の 3 つの柱を考えています。1 つ目は臨床能力の向上です。これは医師特に外科医として最も大切なことと考えています。腹腔鏡や胸腔鏡手術また内視鏡治療などの低侵襲手術を中心とした高精度で安全な手術技術を身につけるのみならず、診断から術後管理、また近年進歩の著しいがんの集学的治療まで広く臨床能力を向上させたいと思います。専門領域として上部消化管、下部消化管、肝胆膵、内視鏡治療の 4 部門に大きく分けそれぞれ最先端の診療を行っていただけるように努力して参ります。2 番目は人間力豊かな医師とでもいいますか患者さんや先輩、同僚、後輩やコメディカルの皆様とのコミュニケーションをしっかりと行い、信頼されチーム医療に貢献できるような医師を育てたいと考えています。そして 3 つ目として研究・発信力を挙げたいと思います。教室員には常にリサーチマインドを持ってもらい診療の質を向上させるために臨床および基礎研究を推進したいと考えます。

若手外科医の減少など教室を取り巻く環境には厳しいものがありますが、上記のような理念を求めて教室員一同努力邁進し、魅力ある教室を作り上げて行きたいと考えております。福岡大学同門会の皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、引き続きご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

教授退任挨拶

福岡大学の良さは自由と家庭的な雰囲気

福岡大学医学部 総合医学研究センター（衛生）教授 畝 博（特別会員）



37年前の昭和53年10月に福岡大学に赴任し、本年3月末に定年を迎えました。37年と6ヶ月福岡大学にお世話になった計算になります。

福岡大学に赴任前、筆者は出稼ぎ労働者のじん肺や振動障害の研究に取り組んでいました。大分県南部には豊後土工と呼ばれるトンネル掘りを専門とする出稼ぎ労働者が数千人おり、その多くが重症のじん肺や振動障害に罹患していることを知り、是非、この豊後土工達の健康障害の実態を調べたいと考え、福岡大学へ赴任しました。

現在は、佐伯市と合併しています旧上浦町、鶴見町、米水津村の調査を行いました。昭和20年代、30年代の初めまで痩せこけた重症の結核患者が見られましたが、そのような重症のじん肺結核の患者さんが地域に多数沈殿しているのに驚きました。一軒一軒インタビューして回り、何故このような健康被害が多発したのか、その原因を探っていました。

出稼ぎ者の多くが1日10時間以上トンネル内で防じんマスクをしないで働き、作業が終了するころには鼻に粉じんが氷柱のように垂れ下がるような状態であったと証言しています。また、トンネルで働くと、じん肺や振動障害といった職業病になるということもほとんど知らされておらず、病気はかなり進んでから初めて知ったという出稼ぎ者がほとんどでした。当時の健康より生産を一とする企業風土が安全を蔑にし、建設業における短期的で不安定な雇用形態が長時間労働を生み、その結果、こうした重症な職業病を生み出されたことを、この地域の調査から明らかにしました。

当然のことながら、インパクトファクターの高低が評価の基準になっている医学の世界ではこのような出稼ぎ者の社会医学的研究は評価されませんでした。当時の福岡大学ではそうした研究でも自由にやらせてやるという雰囲気がありました。当初、大分県南部の調査が終わったら、出身地の岡山に帰るつもりでしたが、比較的自由に研究ができるということで、ついつい長居をして定年まで勤めることになりました。

筆者が福岡大学にこのように長く勤めたのは、もう一つ福岡大学が職員や学生を家族の一員として大切にしている雰囲気があったためだと思います。しかし、最近はその良さが急速に薄れているのではないかと危惧しています。6年生まで進学しながら、退学になるケースが最近増えていることに心を痛めています。教育には厳しさとともに優しさが重要です。嘗て、6年生の卒業判定試験で点数が足りず、退学になるようなケースではいろいろな理由を付けて卒業させていたものです。医師国家試験の合格率は重要ですので、その年の国家試験は受けないという紳士協定のもとに卒業させるというような奇策を用いたりしたこともありました。また、筆者が顧問をしていたクラブの学生が卒業判定試験で合格点が取れず、留年退学になるところを、教授会で生徒の性格の良さと試験を受けた時の体調が悪かったことを強調し、お目こぼしをして貰ったこともありました。今、その学生は良いお医者さんになり、地域住民の信頼を勝ち得ています。

筆者は企業や大学が発展するためには、従業員や学生を家族の一員とみなして大切に、少しの失敗に対しては暖かく見守るような寛容が必要ではないかと思っています。37年間福岡大学に勤務して、福岡大学の良さは自由さと職員や学生を家族の一員とみなして大切にする家族的雰囲気だ、と思います。この福岡大学の良さが今後とも続くことを願っています。

教授退任挨拶

福岡大学医学部 耳鼻咽喉科学 教授 中川尚志 (特別会員)

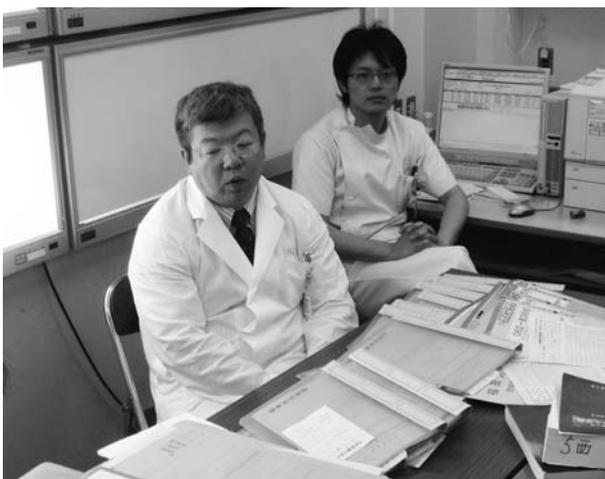


2015年11月30日に退任し、九州大学大学院医学研究院へ異動しました。福岡大学には2006年4月に赴任いたしました。掛け持ちで中途半端になったことは否めませんが、

非常勤医師という立場で、退任後、3月末まで手術や外来診療の従事、6年生の担任を続けることができました。突然の異動ではありましたが、立つ鳥跡を濁さずという機会を与えて下さり、朔学部長、井上亨病院長、田村和夫前病院長に改めて、感謝いたします。無事、後任の坂田俊文教授にバトンタッチすることができました。坂田先生は福岡大学出身です。大学や医局のことを知り尽くしておられますので、教室をより一層発展させるものと確信しています。

福岡大学での生活は本当に楽しかったです。人数が少ないことは仕事をする上でマイナスではありますが、家庭的ないい面をもちあわせています。医局の歓迎会や旅行などの行事に、教室員の家族も参加することができ、医局は家族を含めて、ひとつの大きな所帯でもありました。病院の職員も2000名と決して少なくはない数ですが、どこの部署においても冷たくされることはなく、仕事がやりやすかったことが印象的です。一体となって、進む気持ちを皆が有していることは、福大の長所であり、特長だと思います。

福岡大学に約10年在籍し、教室の主宰、最後の2年間は副病院長として医療安全管理に関わることができました。途中で退任し、様々な経験を福岡大学に還元できないことが心残りです。しかし学んだことを九州大学で活かすことができれば、福岡大学への恩返しになると考え、精進していくつもりです。本当にありがとうございました。また、今後ともよろしく願いいたします。



教授退任の挨拶

第10代病院長・福岡大学医学部 整形外科 教授 内藤 正俊 (特別会員)



福岡大学医学部に整形外科助教授として着任したのは平成4年10月1日でしたので、福岡大学医学部同窓会烏帽子会会員の皆様には23年6か月間もお世話になりました。壮年期を楽しく、有意義に過ごさせて頂き、本当に有難うございました。心から感謝しています。

さて、平成11年10月に第3代の福岡大学医学部整形外科学教授に昇格させて頂きました。爾来、福岡大学病院の基本理念に倣って“あたたかい医療”を私の行動規範として掲げ教育、診療、研究に取り組んできました。卒前教育、卒後研修ではコンピューターのデータより患者の訴えを聞き、理学的所見を大切にしようお話しして参りました。外来患者には自己紹介から始め、診断の根拠や治療方法までを平易な言葉で説明してきました。できるだけ毎日、早朝に担当入院患者の回診を行うよう努めてきました。教室の他の優秀な先生方の御努力があり、周辺の整形外科の先生方や患者さんから一定の御評価を得たのではと思っています。実際、手術件数は毎年増加し、平成12年の年間手術件数は794例でしたが、平成27年には1346例に達しています。研究では軸足を臨床的研究に置き、低侵襲で手術を行うため新

しい解剖学的な発想や手術手技・器械の開発を行いました。これらの研究の主力となったのは大学院生です。彼らの秀抜した能力と努力により多数の知見を海外へ発信することができました。合計38名の大学院生が博士号を取得し、立派な医学研究者として活躍中です。

教室の運営については医局長と副医局長が司り、私の役目は最終的な承認でした。厄介な案件が発生した際には歴代の同門会長にも後ろ盾になって助けて頂きました。教室と一体となって整形外科専攻医教育を担当して頂いた関連施設の部長の方々にも常々頭が下がる思いをしています。これらの先生方のお陰で平成12年から平成27年までに入局した104名は次代を担う整形外科医として着実に頼もしく成長しています。

皆様に対し今でも誠に申し訳なく思っていますのは、福岡大学病院長及び医療担当副学長を兼務した8年の間に福岡大学病院本館の建て替えを福岡大学の理事会の議題にすることができなかつたことです。思い出す度に無力感に苛まれていますが、今年の3月13日に政府が特定機能病院の病院長の裁量や権限を拡大する方針を固めたとの報道に一縷の望みを見出しています。今後、福岡大学の理事会も病院の現場の声を重視する方向に向かうのではと願っています。

最後に私事で誠に恐縮ですが、アツという間に前期高齢者になりました。徐々にススキに近づいているようで、そろそろ“就活”の準備に入らねばと思っている今日この頃です。

学会開催報告

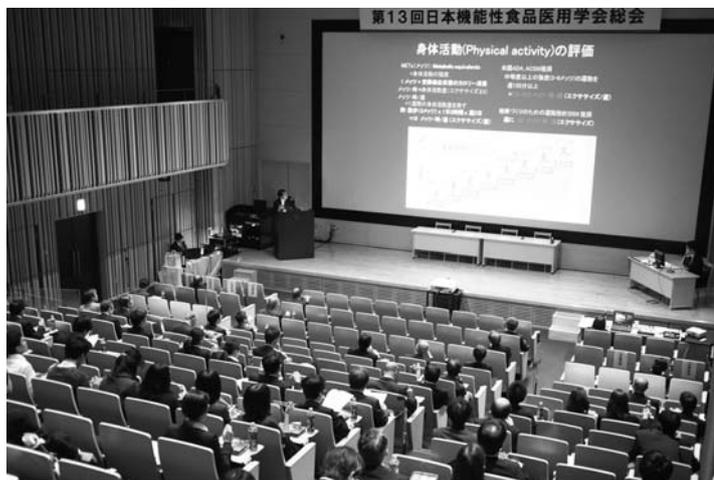
第13回日本機能性食品医用学会総会

第13回日本機能性食品医用学会総会会長

福岡大学医学部心臓・血管内科学 主任教授 朔 啓二郎 (1 回生)

この度、福岡大学メディカルホールにおいて、第13回日本機能性食品医用学会総会を平成27年12月12日(土)～13日(日)の2日間にわたり開催させていただきました。福岡は、日本の中でも有数の食のメッカであり、今回のテーマを“「食」の多様性を追求する”にしました。この学術総会では、「エビデンス」のある機能性食品の医用普及により国民健康促進や生活習慣病予防に役立つことを目的として、特別講演、シンポジウム、教育講演、一般演題など企画しましたが、活発な討議がなされました。機能性食品の対象は、生活習慣病の発症や進行、また、それに関連した虚血性心疾患、脳卒中、肺疾患、末梢

動脈疾患や心不全などの発症といった全身血管病の予防です。医用普及には、医師のみならず、薬学、農学、理学研究者など多職種の関与が必要です。また、今年度より、トクホ、栄養機能食品に続く、第三の機能性表示食品が登場しております。食品の中には明らかに食品機能性を有し、医用や食生活改善に役立つものがあります。従って、機能性食品の医用普及の役割は重大で、社会貢献度も極めて大きいものとなっております。学会開催に関して、ご寄付をいただきました烏帽子会の皆さまに、心より御礼申し上げます。同窓会活動の益々の発展を祈念します。



第 29 回日本消化器内視鏡学会九州セミナーを終えて

第 29 回日本消化器内視鏡学会九州セミナー会長

福岡大学筑紫病院 消化器内科 教授 植木 敏 晴 (8 回生)

第 29 回日本消化器内視鏡学会九州セミナーが盛會に、そして無事に終了したことを心より感謝申し上げます。

本セミナーは、日本消化器内視鏡学会の学術集会の一つで、九州・沖縄地区における消化器内視鏡関連の実臨床に役立つ最新情報を提供するセミナーです。第 29 回は、平成 28 年 1 月 31 日の日曜日にアクロス福岡で開催させて頂きました。毎年九州を中心に多数の先生方に参加して頂いておりますが、今回は 507 名の参加者でほぼ例年通りでした。

本セミナーの成功は、日本消化器内視鏡学会九州支部長の村上和成先生、前支部長の松井敏幸先生を始め、セミナーのご司会やご講演をお願いしました先生方、福岡大学筑紫病院消化器内科の先生方、事務局の方々のご尽力とご協力の賜物と思います。そして何より福岡大学医学部同窓会、福岡大学筑紫病院消化器内科同門会や関連病院の先生方のお力添えに心より感謝申し上げます。

私は肝臓胆道膵臓が専門です。そこで胆膵領域の特色を考え、セミナーの講師として九州以外から 3 名の先生方をお招き致しました。日本消化器病学会理事長・日本膵臓学会理事長の東北大学消化器内

科下瀬川徹教授に「自己免疫性膵炎の最前線」、手稲溪仁会病院消化器病センター長真口宏介先生に「膵・胆道癌の早期診断における内視鏡の役割」、そして岩手医科大学消化内科消化管分野松本主之教授に「小腸疾患内視鏡所見と鑑別診断」と言うタイトルで講演して頂きました。さらに、各領域で御活躍中の九州・沖縄の先生方にそれぞれの専門領域の最新の知見を紹介して頂きました。

福岡大学筑紫病院のモットーは、「患者さんにやさしい医療」です。消化器内視鏡関連手技は、医師と、看護師、放射線技師や臨床工学士が十分な連携を図り、患者さんにやさしい医療を提供できる非侵襲的なモダリティです。本セミナーで一般病院の勤務医や開業医の先生方の日常診療や大学病院などの先生方の臨床研究のお役に立てたのではないのでしょうか。

私は、これからも超音波と内視鏡関連手技を中心に臨床・教育と研究に邁進して行きます。今後とも何卒、宜しく願い申し上げます。

最後に、福岡大学医学部同窓会、福岡大学筑紫病院消化器内科同門会および関連病院の先生方、他関係者の皆様、ご協力、ご支援、誠にありがとうございました。

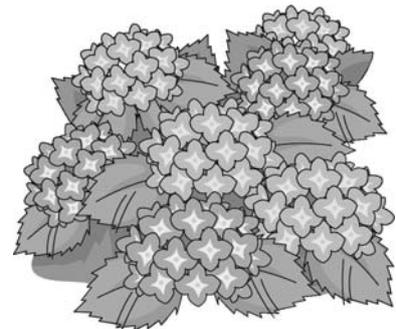


第 37 回九州手外科研究会開催報告

福岡大学医学部 整形外科学教室 講師 石河利之 (18 回生)

平成 28 年 2 月 6 日に福岡市のみらいホールにて第 37 回九州手外科研究会を開催致しました。この度は福岡大学医学部同窓会より学会寄付を頂きまして、誠にありがとうございました。おかげさまで無事に開催することができました。本研究会は昭和 55 年 2 月 9 日に当教室の初代教授の故高岸直人先生が第 1 回会長として開催されたのが始まりで、その後九州各地で年に 1 回開催されています。以来事務局も当教室におかれています。平成 4 年には第 13 回を当時福岡大学筑紫病院整形外科教授の松崎昭夫先生が、平成 7 年には第 16 回を当教室の飯田博幸先生が、平成 17 年には第 26 回を当教室の副島修先生がそれぞれ会長をお務めになっておられます。今回は当教室としては 5 回目の主催となりました。本研究会は九州内の主立った手外科医はほぼ参加する九州を代表する研究会です。当科で 5 回目の主催ができましたことは大変光栄でありました。九州手外科研究会の会員数は現在 361 名で、毎年 10 人ほど増加しています。例年 100 名前後が研究

会に参加されますが、今回は 140 名以上の参加があり、大変盛況となりました。今年の特別講演にはカリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) 整形外科名誉教授の Edward Diao 先生を講師にお招きして、「Recent Advances in Hand Surgery」のタイトルで御講演を頂きました。本研究会に外国人講師をお招きすることは例外的なことですが、平成 5 年に副島先生が UCSF に留学された際に research fellow として Diao 先生の hand and microsurgery laboratory にて一緒に仕事されたことが端緒となつて、飯田先生、私を含めて当教室より 7 人の留学生を受け入れてくださいました。そのご縁を通じて今回の講演依頼となりました。例年議論が盛り上がり閉会が予定より 1 ～ 2 時間延長するのが通例です。今年も押しましたが、なんとか 1 時間の延長で収まりました。次回はまた 10 年後に当教室に主催の機会が訪れると思います。その際にはまたどうかご協力を賜りますようお願い申し上げます。今回は誠にありがとうございました。



会員寄稿

『植木敏晴教授就任をお祝いする 8 回生の会』報告

馬渡産婦人科 理事長 馬 渡 秀 仁 (8 回生)



最後列左から白井、國米、徳光、立木、立志、鶴田、渡辺、山崎繁通、徳永、池田、藤光(渡辺)、難波(尾渡)
中列左から馬渡、中庭、中村吉孝、酒井、児玉(北村)、篠原貫之(重富)、江本、岩隈、木村、豊島(夫)、
藤光、藤吉、久保
最前列左から中島(副島)、篠原義成、竹本(伊達)、植木、村田(加藤)、有永、小川、岩男

植木敏晴君の福岡大学筑紫病院消化器内科教授就任の快挙を祝し、去る1月23日(土) 18:00より、西中洲の日本料理『てら岡 春駒店』にて同級生である8回生主催の祝賀会を開催しました。

当日は遠く、北海道・関東からの参加者も予定されていました。しかしながら、あいにく40年に一度とも

言われる、大寒波に襲われると言う想定外の展開に、北海道・関東は言うに及ばず、九州各地はもちろん、福岡近郊からの来場者すら、足止めを食う羽目に陥りました。また、翌日の飛行機が飛びそうになく、月曜からの診療を危ぶみ、泣く泣く参加を見合わせた方も少なくありませんでした。



宮崎も積雪だったようです。



左から中村吉孝、竹本(伊達)、植木教授



左から岩男、山崎繁道、白井、江本、渡辺

それでも、植木君の人徳でしょう。概ね 30% の参加キャンセルが出たにもかかわらず、様々な困難を克服(?)し、34 名が勢ぞろいしました。

中には、何と、祝賀会の参加は今回が 3 回目と言う人おりました(植木君の祝賀会は医局・医師会・内科医会等々の主催で既に複数回、行われておりました)。



左から中庭、立木、藤光(渡辺)、鶴田



左から篠原義成、中島(副島)、久保、岩男、國米



左から徳永、篠原(重富)貫之、豊島(夫)、中村吉孝



左から藤吉、岩隈、立志



左から有永、新山、横山、小川



祝賀会 3 回目 今日リラックス? 徳光先生

さて、会が始まって直ぐに、『おーい、幹事い〜、名簿は無いと? 女性はともかく、男は誰が誰か分からん!』とあちこちから。

無理ありません、卒後、30 年ぶりの再会も少な

からずあったのですから。

しかしながら、驚くべきは女性陣のメンテナンスの素晴らしさでした。ほとんどの方に学生時代の面影が偲ばれ、皆様、相変わらず、お美しい!



左から中島（副島）、藤光（渡辺）、竹本（伊達）、村田（加藤）、児玉（北村）、難波（尾渡）

ちなみに植木君も学生時代の面影を残す若々しい様で、皆を驚かせました。オーソドックス、真面目、上品と言う植木君の変わらぬキャラクターに皆、ほっ

としつつも、総勢 40 名に届かんとするスタッフ（助手以上、教室ホームページ参照）を擁する、大きな教室の長たる植木君の重責に思いを馳せました。



最年長の篠原義成先生から記念品の贈呈



植木教授挨拶

会の中では、元同僚による植木君の教授就任までの苦労話の披露など、公式な祝賀会では聞くことの出来ない話題も飛び出し、同級生ならではの会でした。

座は盛り上がり閉店時間を大幅に超えてしまいました。お店からの『もう、そろそろ...』と言う声に、植木

君の快挙を改めて祝いつつ、皆の健康と再会を祈って解散しました。

皆、三々五々、別れを惜みつつ、中洲の夜の街へ消えて行きました。

（写真提供：児玉（北村）久美子先生、文責：馬渡）

日本抗加齢医学会分科会 第5回運動器抗加齢医学研究会開催の御報告

広域医療法人明和会 スポーツ・栄養クリニック 理事長 武田 淳也 (16 回生)

この度、第5回運動器抗加齢医学研究会の会長を拝命し、2015年12月6日(日)、福岡大学メディカルホール(福岡市城南区)にて、同研究会「テーマ：運動器抗加齢医学の現在と未来～治療と予防の最前線とリエゾン(多職種連携)の夜明け」を開催させていただきました。当日ご出席賜りました日本抗加齢医学会理事の大慈弥裕之教授(副学長・形成外科・3回生)、御講演を賜りました内藤正俊教授(整形外科)をはじめ烏帽子会の皆様からの多大なるご支援ご協力を賜りました。誠にありがとうございました。

当日は最悪の条件、具体的には、福岡市内で「DREAMS COME TRUE」、「ウルフルズ」、「福岡国際マラソン」等のイベントが目白押しでホテル予約が早くより非常に困難な状況で、参加者数を懸念したにもかかわらず、予想を遥かに上回る総参加者数234名の盛会となり、抗加齢医学における運動器分野への皆様の御期待の高さと責務の重さを感じ身が引き締まりました。

今回は「運動器抗加齢医学の現在と未来～治療と予防の最前線とリエゾン(多職種連携)の夜明け」をテーマに、広大な運動器の領域を、荷重関節を中心に、膝関節、股関節、脊椎、軟骨、筋萎

縮、骨粗鬆症、運動療法、栄養療法のそれぞれの分野のトップランナーの臨床家かつ研究者の先生、総勢9名にご講演戴き、ランチョンセミナー、パネルディスカッションと濃密な1日となりました。

午前中の演者は、松田秀一教授(京都大学整形外科)、内藤正俊教授(福岡大学整形外科)、安達伸生教授(広島大学整形外科)、西良浩一教授(徳島大学整形外科)。ランチョンセミナーは、志波直人教授(久留米大学整形外科)。海外特別招聘講演は、Sherri Betz 女史(全米理学療法士協会 Bone Health(骨の健康)委員会委員長)から「Kinesiology and Liaison in Osteoporosis ~ US Circumstances and Challenges(骨粗鬆症における運動科学と多職種連携～米国の状況と課題)」。

パネルディスカッションは、田中瑞雄先生(元田中整形外科病院理事長)、田中宏暁所長(福岡大学身体活動研究所)、虎石真弥助教(帝京大学スポーツ医科学センター、管理栄養士)

以上、の顔ぶれで(写真2)が行われました。

師走の時期に、北海道から沖縄まで、医師のみならず78名もの多数のコメディカルの方々もテーマが目指した通り御参加戴き、多職種の連携抜きではあり得ない、これからの抗加齢医療、運動器医療に



Sherri Betz 女史の講演



パネルディスカッション

明るい未来を感じました。ご参加戴きました皆様、関係各位の皆様、そして何よりも多大なるご協力を賜り

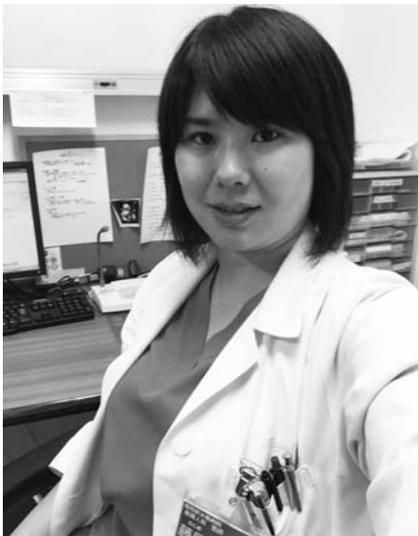
ました福岡大学医学部同窓会鳥帽子会の皆様に、この場を借りまして重ね重ね厚く御礼申し上げます。



ボランティアで手伝ってくれた、スポーツ・栄養クリニック& Pilates Lab のスタッフ

「おうっ、女医！元気？」

福岡新水巻病院 産婦人科 藤 尾 加代子 (33 回生)



私自身医師人生ももうすぐ7年目に突入、さらにはあと数日で31歳になろうとしている今日この頃、なかなか会えなくなった医学部の学生時代の同期や先輩方・後輩

たちに私の近況をお伝えするとともに、在校生の皆さんに私なりの医師としてのアドバイス…とまではいなくても、こういう先輩もいるんだよーということの提示ができたらと思い、キーボードを走らせてみました。

まず上記の通り、私は今産婦人科医として働いています。産婦人科専門医の資格を取るべく、日々楽しく仕事をする一方で勉強もがんばっています。

その一方で、趣味のバレーボールを最低週1回は

しています。福岡市内の男女混合社会人サークルに所属し、毎週土曜日夕方はチームメイトとバレー、たまに日曜日に社会人サークル用の試合にも出ています。

チームメイトも、試合に出ている他のチームの方々も、出身地から学歴・職種まで実に様々です。共通しているのはみんなバレーが大好きだということぐらい。私も最初チームメイトに（職業を聞かれたので）医者だということを告げるとかなりびっくりされましたが、すぐにそんなことはどうでもよくなり一人のバレーが大好きな女性プレイヤーとして接してくれるようになりました。みんなそれまでやってきたバレーのレベル・環境も様々で、中学3年間だけ部活でやって大人になって久しぶりに再開…という方から、なんと春高バレーに出場した方や大学のスポーツ学科のバレー部だった方もいたりします。バレーする上では学歴も職業も関係ありません。チーム内では年齢的にお姉さん側の私でも、5個年下や10個年下の子たちにたくさん指導やアドバイスをもらっています。

もちろんバレーも楽しく、かつ真剣にみんなで取り

組んでいます。春にはお花見に行ったり、冬には牡蠣小屋に牡蠣を食べに行ったり、歳の近い子同士では2人や3人でお茶しに行ったり、果てはバレーがきっかけでお付き合いを始め、結婚するカップルもちらほら…誰にとっても大人になってから仕事以外の場で純粋に友人ができる貴重な場なのでしょう、私自身も多くの友人や先輩・後輩に出会うことができ、日々楽しく過ごさせてもらっています。くだらない冗談も、仕事のキャリアプランや恋慕の相談までもここで出会った友人たちと交し合っています。

私は初期研修医の2年間だけは神奈川県内の大病院で働きましたが、実はこのときも社会人のバレーサークルに所属していました。この2年間は仕事で疲れ切ってる時も仕事の後や休みの日はサークルのメンバーと飲みに行き、一緒にバレーをして、この方々にもいろんな相談に乗っていただき(このときダメな男性を追いかけていた私をちゃんと叱ってくれたのもこのチームメイトでした)、本当に素敵なお兄さん・お姉さん・友人たちに恵まれました。福岡に帰ってきた今でも私は神奈川のチームメイトたちとは連絡を取り合っていますし、彼らと一緒にバレーの試合に出るために関東に個人遠征に行ったりもしました(笑)。

実は私は医師3年目に一度産婦人科後期研修医として働きだしたのですが、体調が優れず途中から休職、そして入職後わずか1年で退職を余儀なくさ

れました。こんなにも早く、しかも技術も知識もけなしの状態で巣なし鳥になってしまい、その後の医師としての生活を考えると絶望の2文字しか浮かばなかったのですが、それでも何とかアルバイトで食いつないだ医師4年目と5年目、その2年間は医師3年目の末にバレーサークルに入団してもう一度思いっきり大好きなバレーボールをすることができた、またたくさんさんの素敵なチームメイトに恵まれてたくさん一緒に笑うことができたから乗り切れました。ほぼ知り合いもいなかった神奈川での研修医2年間も、神奈川でのバレーのチームメイトがいたから乗り切れました。無事にもう一度産婦人科医として働き出せた医師6年目も、うまく仕事と両立しながらバレーをしています。

18歳、親が医者だから、高校が医学部受験に力を入れている学校だったから、自分が医者になるなんて実感も覚悟もないまま入学した医学部1年生の時、私は「医者になるとかどうでもいいから、一生バレーだけしていきたい」なんて言っていました。

ですが医師4年目の28歳の時、「もう一度産婦人科医として働けるのなら、大好きなバレーだって諦められる。もう一度働きたい」と言っていました。

そして31歳目の今、私はこう言っています。「私は、医師業もバレーもどっちも大好き。だから今後もどっちもがんばっていく」。

医師という仕事はとても魅力的です。この仕事で



しか見られない世界がたくさんあります。でも、そのためには日々技術も知識も向上していかないといけません。一生勉強・一生努力です。ですが、そのために自分の生活を、自分の「人」としての人生を犠牲にしてもいいものなののでしょうか。人を救うためには自分を犠牲にしなければいけない——医師とはそんなに哀しい職業なののでしょうか。

専門医もまだ取っていない木っ端の医師が何を言うか!偉そうに語る暇があったら勉強しろ!もちろんそういうご意見もあるでしょう。反論する気は毛頭ありません。ですが、身を粉にして日々働き疲れ切り、ある日病に倒れる先生方も何人か見てきましたし、そこまですりかかるとも毎日の激務に忙殺され、今この時を楽しむことができず、そして将来を憂いている医師があまりにも多いと思うのです。私自身もそうでした。そしてそんな医師の姿を見て将来を憂える医学生もまた多いと思います。これも私自身そうでした。

医師の世界だけじゃないでしょう。現代日本の労働世代の、なんと就業時間の長く、なんと日々の生活を楽しめてない人の多く、なんと社会全体が疲れ切っ

ていることか。街で困っている人を見ても気付かないフリ、お年寄りや子供連れや障害のある方は邪魔者扱い、趣味や家族との時間を楽しんでいる人を見れば暇人扱い…みな、疲弊しきって自分のことではいいっぱいなのではないでしょうか。なんと悲しい世の中ではないでしょうか。しかもこれだけのみなの頑張りに対して日本の景気がどれだけよくなっていつているのか…政治経済方面に暗い私でも疑問を持たずにはいられません。

仕事を大成させるためにはまず自分を大事に。社会の一員である以上にみな一人の「人」です。まずは自分の生活を、人生を楽しむことが明日また頑張るための動力になり、人にも優しくできるのではないのでしょうか。

…なーんて、木っ端は木っ端なりに考えたりもしています。

タイトルですが、バレーで出会った方々の中には私のことを「女医!」とか、「女医さん!」と呼んでくれる方もいます。「ジョイ」という単語が言いやすらしく、立派な愛称の一つになってしまいました(笑)。



平成 29 年度 福岡大学医学部同窓会
研究奨励賞 募集要項

対 象：正会員及び準会員で、40 才未満の者または学部卒業後 10 年未満の者
(本会会費完納を条件とする)

研究課題：医学に関するものであれば自由(医学に関する研究論文又は研究計画)

申請方法：所定の申請書による(所定欄に支部長推薦を要す)

提出先：〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
T E L 092-865-6353 (直通) 代表 092-801-1011 内線 3032
F A X 092-865-9484

締 切：平成 29 年 5 月 1 日 (月)

賞状・賞金：奨励賞(優秀論文賞を含む) 5 件以内

発表及び表彰：平成 29 年 7 月、第 36 回同窓会総会席上 必ず出席すること

そ の 他：①論文受賞者は抄録を提出すること

計画受賞者は 1 年後研究成果報告書を提出すること

②申請書は同窓会ホームページからダウンロードするか、同窓会事務局に請求のこと

③申請書はワープロで記載し、過去の研究業績(原著、著書、症例報告、学会発表)、
研究の独創性・重要性を十分に書くこと

※準会員の方もご応募下さい。

福岡大学医学部同窓会
在外研修援助金 募集要項

①長期研修

対 象：正会員、準会員(本会会費完納を条件とする)で医学の研究または医療技術の習得のため、
3 ヶ月以上外国に留学する者

申請方法：所定の申請書により留学出発 3 ヶ月前までに提出のこと

提出先：〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
T E L 092-865-6353 (直通) 代表 092-801-1011 内線 3032
F A X 092-865-9484

援助金：1 件 20 万円を限度とし、年間 5 件以内

発 表：本人に文書にて連絡

そ の 他：①受給者は帰国後その成果を同窓会会報に発表すること

②研修中に生じた問題について同窓会は関与しない

③申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードのこと

※準会員の方もご応募下さい。

学生対策報告

五年生にむけて

徳重 真純 (M5)

この度はこのような素晴らしい白衣授与式・Student Doctor 認定式を開催していただき、誠にありがとうございます。烏帽子会の皆様、並びに福岡大学病院の先生方に5年生一同を代表して心から御礼申し上げます。

頂いた白衣に袖を通して白衣に刻まれた自分の名前を見ると、実習とはいえこれから臨床の現場に立つ人間の一人なのだとことを実感し、身の引き締まる思いです。

私たちはこれまでの4年間で座学を中心に医学を学んできました。これからの実習では実際に患者さんを目の前にして、今まで学んできた知識が臨床の現場でどのように活かされるのか学んでいきたいと思

います。また医学だけではなく、患者さんや医療スタッフとのコミュニケーションや、患者さんを一人の生活者と見たとき私たちがどのように関わっていけばよいのか考えていければと思っています。実際に現場に出て患者さんと接するのは喜びでもありますが、臨床経験のない私たちにとっては不安でもあります。Student Doctor であるという自覚と責任をもち、真摯な態度で患者さんと接していきたいと思います。

この一年半の実習を有意義なものとする事ができるよう、実習に積極的に取り組み、5年生一人ひとりが成長することをここに誓い、お礼の言葉とさせていただきます。

(平成28年3月吉日 5年生総代 徳重 真純)



キャンパス便り

《平成 27 年度 烏帽子会賞受章者名簿》

受賞者	姓名	受賞対象
剣道愛好会	中山 敦貴	平成 27 年度第 29 回市民総合スポーツ大会・第 63 回福岡市剣道祭優勝
アーチェリー愛好会		第 30 回全日本医科学生アーチェリー競技大会 男子ダブルラウンド 優勝
アーチェリー愛好会		第 30 回全日本医科学生アーチェリー競技大会 女子ダブルラウンド 3 位
ゴルフ愛好会		2015 年度七校戦 男子団体優勝
バスケットボール愛好会		第 67 回西日本医科学生総合体育大会 女子バスケットボール愛好会優勝
波多江 健五・徳重 真純・多湖 真帆里・中島 史暁・定村 朋美		第 1 回全国医学生 CPR 選手権大会九州ブロック優勝
宮部 美圭		第 106 回日本消化器病学会九州支部例会 研修医奨励賞

第 1 回全国医学生 CPR 選手権大会九州ブロック優勝

波多江 健 五 (M5)

波多江 健五 (M5)・徳重 真純 (M5)・多湖 真帆里 (M5)・中島 史暁 (M3)・定村 朋美 (M2)

昨年全国で初となる全国医学生 CPR 選手権に出場させて頂きました。

今大会は日本救急医学会が主催し、全国の医学部学生の心肺蘇生技能向上を目的として開催され、全国の医学生が集まって切磋琢磨することで、より質の高い心肺蘇生について考える機会になり、ひいては医学生自身が各地域での CPR 普及の担い手となり、今後の救急医療のさらなる向上につながることを期待されてのものです。

今回福岡大学 4 年から波多江健五、徳重真純、多湖真帆里、2 年生から中島史暁、1 年生から定村朋美の 5 名がチームとして出場させて頂きました。4 年生は AHA (American Heart Association) ガイドライン 2010 準拠 BLS (Basic Life Support) ヘル

スケアプロバイダーコースを受講しており 2 年生 1 年生は他大学の BLS の勉強会に参加し、今大会の為に練習を重ねてきました。結果は九州ブロックで見事優勝することができ、大きな達成感を得られ充実した時間を過ごすことができました。残念ながら全国ブロックでは優秀な成績を残せませんでした。全国医学生のレベルを知ることができ、悔しい思いをしましたが今後の糧になる…そんな有意義な時間を過ごせました。

最後に、熱心なご指導と温かいご配慮を頂きました福岡大学病院救命救急センターの先生方、お忙しい中大会運営に携わった多くの方々、お互いに指摘し合い手技を磨くことができたメンバーに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



第 1 回 全国医学生 CPR 選手権大会九州ブロック優勝 / 波多江健伍・徳重真純・多湖真帆里・中島史暁・定村朋美

西医体を終えて

福岡大学バスケットボール愛好会 主将 関 千 尋 (M5)

女子バスケットボール愛好会は、大阪で開催されました第67回西日本医科学生体育大会におきまして優勝したことを報告いたします。この成績により、烏帽子会賞を受賞させていただき、誠にありがとうございます。

西医体2連覇達成!!とても嬉しいです。西医体は1年間のうちで最も大きな大会ですが、私は、この大会で楽しみにしていることが2つあります。1つ目は、試合に勝って上位に進むこと。特に全員が試合に出て勝つこと。バスケは、5人でプレーする競技です。1年生から6年生まで、バスケ初心者でも経験者でも全員で1つの試合に出て、楽しみながら勝つことが私の目標の1つでした。今回、多くの試合でこれを

実現させることができ、チームが一丸となった楽しい試合をすることができました。2つ目は、西医体を通して他大学の学生と交流ができることです。西日本各地から来ている学生と様々なきっかけでコート内外で話す機会があり、その時間が私はとても好きです。毎年この場で会えること、新たな出会いがあることを楽しみにしています。これらの素敵な経験と機会が得られるのも、多くのOB・OGの先輩方の支えがあるからです。本当にありがとうございます。

最後になりましたが、いつも熱く指導して下さる監督の猪狩さん、大きな声援をくれた男子部員、激励と祝福の言葉をくださった全ての皆さんに心から感謝申し上げます。



烏帽子会賞を受賞して

剣道愛好会 中山 敦 貴 (M6)

今回このような賞をいただき本当にありがとうございます。私は、福岡市民総合スポーツ大会福岡市剣道祭において個人戦、優勝することができました。

今回の大会は西医体や九山のように医学部の学生がメインに出場している大会とは違い、社会人の方や一般の方が多く出場している大会に私は参加しまし

た。剣道には、「交剣知愛(こうけんちあい)」という言葉があります。辞書には、「剣を交えて"おしむ"を知る」とあり、剣道を通じて互いに理解しあい人間的な向上をはかることを教えたことば、とあります。この言葉のように、普段の学校生活ではあまり交わることのない方々とも剣道を通じて交わり、また剣道の稽古や試合を通して初めて会う人との礼儀作法などを学び、人間的に成長していくことが大切だと思います。正直、大会の結果は二の次であり、このように人間的に成長していくことが部活動や課外活動の大きな目的ではないかと思えます。そして、このような経験は将来、医師になった時必ず生きてくると思っています。学年が上がるにつれ勉強と剣道の両立に悩むこともありますが、どちらも全力で取り組み、充

実した学生生活を送りたいと思っています。

最後になりましたがいつも応援して下さる顧問の先生、OBOGの先生、先輩方にこの場をお借りして改めてお礼申し上げます。ありがとうございます。今後も剣道愛好会をよろしく願います。



全医体洋弓優勝のご報告

アーチェリー愛好会 柳 邊 崇 志 (M2)

第30回全医体アーチェリー競技大会(30m部門)において優勝することが出来ましたので、ご報告させていただきます。今回の大会、そして1月の表彰式においては自分がどれだけ多くの愛好会先輩、烏帽子会の先輩先生方に支えられ、応援いただけているのかを肌を感じられました。本当にありがとうございます。

アーチェリーという競技については、「中年の星」山本博先生や、バラエティー番組を通じてご存知の方もいらっしゃるのではないのでしょうか? 30m、70m先の的に当てるなんて難しそうだと思います。ですが実際には、特別難しい競技ではありません。適切な弓具を使うことで体格・体力的な不利が生じにくく、社会人になってから、また、社会人を引退してから始められる方も多く、そういった方々が大会などでも活躍されています。

私は試合で安定した点数を出すのに必要なのは、いつもと同じように撃つことと考えています。体に覚えさせることはたくさんありますが、

試合のときに意識するのはこの一点です。練習で色々考えながら体に覚えさせ、弓具を調節しておけば、あとは普段通りを行うことで矢は狙ったところに飛んでいきます。外れたら、それが普段通りに撃てなかったから外れたのか、風の影響なのか、射場の要因なのかを考え修正する。この繰り返しです。

大学で始めた身なのでまだまだ課題は多くあります。このことを楽しみ、改善しながら結果へとつなげていければと思います。本当にありがとうございました。



福岡大学アーチェリー愛好会

福岡大学アーチェリー愛好会 檜井 恵利菜 (M2)

今回このような賞をいただきありがとうございます。烏帽子会会報に原稿を書く機会をいただいたので結果報告等させていただきます。

私は第30全日本医科学生アーチェリー競技大会において女子ダブルラウンド第三位になりました。

弓を引き的を狙い、矢を射て矢の当たった場所で点数が決まる。アーチェリーはシンプルなスポーツですが、その一方で、風向きなどさまざまなことを考えて射なければ狙ったところには当たりません。大会では前半36射、後半36射の72射の得点で順位を競います。やはりこの数は多く段々と疲れがたまってきますが一射一射をおろそかにせず遠くの的を狙う

必要があり、集中力がとても大切になります。私は大会では極度に緊張してしまい、集中力が切れやすくなってしまったため、平常心を保つことがこれからの課題だと思っています。

今回の大会では、アーチェリーの競技ができただけでなく他大学の医学生と交流することができ、そのことも良い刺激になったと思います。

最後になりましたが、応援して下さいました先生方、指導して下さいたり、心身ともにサポートして下さいました先輩方ありがとうございました。今後も先輩方のご指導のもと頑張りますのでよろしくお願いします。



福岡大学ゴルフ愛好会

福岡大学ゴルフ愛好会 安心院 勇 佑 (M4)

まず初めに、栄誉ある烏帽子会賞を頂きましたことを大変嬉しく思うとともに、多大な支援をしていただいた烏帽子会の諸先生方に心より感謝申し上げます。

私たちゴルフ愛好会は、産業医科大学主幹で行われた2015年度七校戦におきまして男子団体が優勝することができました。優勝までの道のりは決して平坦なものではなく、これまで入賞することも叶わず、1年前の大会では優勝を目指しながらも最下位という結果に終わり大変に悔しい思いをしたことを鮮明に覚えています。この時に感じた他大学との差を

埋めるべく、普段の部活動の時には競い合いながらもお互いに足りないところは教え合いながら切磋琢磨していき、放課後や休日に時間がある時は積極的に自



主練習を行ってきたことが今年の優勝に大きく関わっているのではないかと思います。また、これまであたたかく支援して下さったOBの先生方、多くのことを指導して下さった先輩方、一緒に頑張ってきた部員、

誰一人として欠けていたら今回の優勝というのは成し得なかったのではないのでしょうか。これからも常に感謝の気持ちを忘れることなく、皆様に優勝のご報告ができるよう精進していきたいと思っています。



福岡大学医学部同窓会 烏帽子会賞褒賞基準

1. (目的) 福岡大学医学部同窓会(以下烏帽子会という)は、その所属する学生会員が対外試合または活動において優勝し或いは優秀な成績を収めた場合、その団体または個人に対し、その榮譽を讃え賞状、賞金または賞品を授与してこれを表彰する。
2. (賞の名称) この賞を烏帽子会賞という。
3. (対象試合等) 表彰の対象となる試合または活動とは、概ね西日本医科学生総合体育大会、九州 山口医科学生体育大会を含むその規模以上のものを云い、内容は単に体育関係のみならず学術、芸術等多岐に亘るものとする。
4. (申告書の提出) 烏帽子会は烏帽子会が表彰に値すると認めた団体または個人、或いは自ら表彰を希望する団体または個人に対し、烏帽子会賞申告書及び賞状の写しを提出させる。
5. (表彰の審査) 表彰の審査及び賞金額の決定は理事会において行う。
賞金または賞品の支給基準額は別表の通りとする。
6. (表彰) 表彰は総会、理事会等の席上で行い賞金を授与し会報に掲載する。
付則 1、この基準は平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
2、この改正基準は平成 22 年 1 月 15 日から施行する。

別表) 烏帽子会賞の基準

		西医体：A	全医体：B	九山：B	その他：C
団 体	優 勝	A-1 50,000円	B-1 30,000円	B-1 30,000円	C その都度判定
	準優勝	A-2 40,000円	B-2 20,000円	B-2 20,000円	その都度判定
	3 位	A-3 30,000円			
	4 位	A-4 20,000円			
個 人	優 勝	A-3 30,000円	B-2 20,000円	B-2 20,000円	C その都度判定
	準優勝	A-2 20,000円	B-1 10,000円	B-1 10,000円	その都度判定
	3 位	A-1 10,000円			

※但し烏帽子会賞は同一大会に1個とし、上位の成績を表彰する。参加チーム数の少ない場合は理事会にて減額することができる。
5年連続受賞においては殿堂入りと賞する。

訃 報

正 会 員	西 弘 樹 先生	平成 25 年	4 月 25 日	ご逝去 (5 回生)
正 会 員	米 沢 善 照 先生	平成 27 年	3 月 20 日	ご逝去 (4 回生)
正 会 員	青 野 猛 先生	平成 27 年	3 月 27 日	ご逝去 (8 回生)
正 会 員	重 川 浩 司 先生	平成 27 年	4 月 16 日	ご逝去 (12 回生)
正 会 員	大 川 正 幸 先生	平成 27 年	4 月 25 日	ご逝去 (1 回生)
正 会 員	久 保 直 文 先生	平成 27 年	5 月 12 日	ご逝去 (14 回生)
正 会 員	吉 本 雅 彦 先生	平成 27 年	8 月 3 日	ご逝去 (8 回生)
正 会 員	徳 安 英 世 先生	平成 27 年	8 月 25 日	ご逝去 (4 回生)
正 会 員	船 越 邦 子 先生	平成 27 年	11 月 8 日	ご逝去 (2 回生)

重川浩司先生を偲ぶ

井関クリニック理事長 井 関 貞 文 (12 回生)



重川浩司先生が亡くなってから1年が経つ。あまりに早い死にご遺族の無念さは察してあまりあるものとする。まさか自分がこの追悼文を書くことになるとは露ほども思っていなかった。自分にとっては友人であり、判断に迷った

際には大事な路を照らしてくれた恩人でもある。色々な思いが交じり粗雑な文であることをご容赦いただきたい。

突然の絹原君からの電話だった。慌てて確認を取ったが。突然の訃報にて驚くことだった。診療科も違い仕事ではあまり重ならないため遊ぶ飲む時しか会わない。愛媛の同窓の集まりや遊び以外は交差しなかった。元気なものと思っていた。彼は愛媛では有名人であり、毎月発行されるタウン誌やラジオパーソナリティーとしての声でいつも元気であると思っていた。重川君、シゲ、君は偉大な男だった。気持ちの優しい大きな気持ちをもった男だった。君と初めて会ったのは福岡大学の二次試験を受けるための飛行機の中だった。30年以上前の3月1日の福岡行きの飛行機の中で学生服の二人は目立っていた。同時に入学し同じ愛媛県出身ということで話をするようになった。君はラグビー、僕はボート、君は明るく社交的、僕は根暗で一人が好き、君は前に出ていくタイプ、僕は一番後ろがすき。けれど二人とも寂しがり屋

で、落ち込むタイプだった。君が変わったのは5年生のとき病院実習が始まった頃だった。病院の食堂で君は俺に「俺には頑張る理由ができた」そう宣言し医師になる道へ文字通り邁進していった。6年生も終わり頃になるころ、勉強不足の自分は君に大きく叱られた。「もう少し勉強しろ。おまえに道は2つに1つしかない。医師になるかならないかだ。できないものには言わない。勉強17時間睡眠6時間その他1時間だ。」君の厳しい助言は大きかった。国試は僕も合格し愛媛大学に入局を決め、君は産婦人科、吉田さんと僕はともに外科医を目指した。その後数年を経て2人は開業医となり君は他の人の3倍いや5倍は働いた。産婦人科医、ラジオパーソナリティー、各種イベントなどで君は愛媛の有名人だった。福大の卒業生が愛媛で集まるときも君は中心で積極的だった。松山の二番町で夜中に会ったときも説教くらったなあ。仕事も遊びも君は豪快だった。君と最後に遊びに行ったのは山にうちに行ったときだった。「帰りにコーヒーでも一緒に行くか。」その会話が最後の言葉だった。君の居なくなった虚しさもその大きさに比例する。シゲならどう考えるだろうか。もう助言は聞かえない。きみのことを過去形で話すのは本当に辛い。君の御子息も産婦人科へ進むと聞いた。きっと君に似た頼りになる産婦人科医になることだろう。もう少しだけ待っていてくれ。あと少ししたら僕も行くから。そうしたらまた一緒に山に行こう。

大川正幸さん、あなたとの友情に感謝して

島根大学副学長・教授 大 平 明 弘 (1 回生)

2015年4月26日、午前5時頃に、押川達巳さんからの電話に驚きました。「大川君が亡くなったよ。」

大川正幸さん、心優しい人でした。1972年4月14日に福大医学部に入学し、この時から大川さんとの交友が始まりました。最初に思い出されるのは、夏になる前のこと。福岡で「4月の恋」、「砂に書いたラブレター」などで有名だったPat Booneのコンサートが開かれ、当時大学1年生だった同級生も、ちらほら会場に見受けました。大川さんは綺麗な、背の高い女性をエスコートして現れました。私は誘う相手が居ないので、高校時代の同級生と出かけました。仲良くなってからは、有名な外タレが来れば、よくコンサートに行きました(同級だった、中野『旧姓、林田』健児さんのお陰。2015年6月24日にご逝去)。私は学生時代、自宅からバス通学でしたが、大川さんはシルバーの日産ローレルでの通学でした。学生時代の6年間、帰りは大川さんが私を冷泉の自宅まで送ってくれるという日々でした。

大川さんのご実家は志免町で、お父様は外科医として活躍されていました。3年生の夏休み、「外科手術があるから、見学に来ないか。」と大川さんに誘われました。私の父は眼科医で、小さい頃、父の手術を怖々、遠目に見たことはありますが、外科の手術は見たことはありませんでした。解剖実習は終わった頃と思いますが、大川外科の術前には、麻酔を担当される、ハーバード大学に留学経験のある先生や九大から応援の先生方も居られました。彼らから「凝固して止血する時は焼肉の臭いがする。」などと散々、か

らかわれました。いざ、手術が始まると、皮膚切開の時点で、あろうことか、私は気を失ってしまいました。驚かれたのは執刀中の父上で、「後頭部を打たなくて良かった。でも流石、眼科の先生の坊ちゃんやね。」と言われました。この時のエピソードは時々、今でもポリクリの学生に話すことがあります。長嶋茂雄だって、プロデビューの時は4打席4三振だと、自分に言い聞かせ、2例目、3例目はしっかりと見学したことを思い出しては苦笑いしてしまいます。その後も時々、見学に伺い、交通事故の患者処置などを大川さんと一緒に見る機会を作ってもらいました。また当時の寄生虫学教授は世界的に有名な宮崎一郎先生で、ご自宅によく二人でお邪魔しました。夜遅くまで尽きることなく、研究や海外の生活など楽しいお話を伺うことができ、大きな影響を受けました。

授業中は講義に出されるスライドの全てを書き移すことができないので、彼は左から、私は右から写し、互いに合わせるという、ノート作成をよくやっていました。試験前になると、「まとめノート」を私の自宅で作ることもありました。大川さんは抜群の集中力の持ち主でした。私たち数人がまとめ終わる頃、それまで寝ていた彼はすっと起き上がり、まとめ集を理解してしまいます。「大川君と同じ勉強法をするなら、普通の者は留年するたい。」と押川さんが同級生に言っていたのを思い出します。大川さんは抜群の集中力の持ち主でした。「試験中に酒を飲むとは、けしからん。」と私の父に怒られ、神妙な顔をしていた彼。そんなこともありました。大川さんはゴルフ部でしたが、テニスも上手で私も習いました。

もっと多くのことを書きたいのですが、追悼文を締めくくりに際し、あなたへの手紙を綴ります。

医師になってからは、お互い忙しく、会う機会もなかなかありませんでした。私が単身赴任を続けているため、いつも私の健康のことを気遣ってくれましたね。長崎の助教授時代、島根に行ってから電話をよくもらっていました。昨年4月に島根大学の副学長になり、そのことを知らせようと頭を過ぎりましたが、とうとう伝えることが出来ませんでした。心優しいあなたなら、きっと喜んでくれたらと思います。大川さ



前列左より／永瀬、押川、犬塚教授、朔、大川
2列目左より／大平、野田、原、後列／箕田

ん、あなたは私たちに大きな感化を与えてくれました。あなたとの友情を育む事ができ、私の人生も豊かに

なりました。私はこれからもあなたと語り続け、あなたは私たちの未来を見守り続けてください。合掌

青野 猛先生を偲んで

福岡大学筑紫病院 麻酔科長 生 野 慎二郎 (8 回生)

8 回生の青野猛さんが 27 年 3 月 27 日に膵臓がんにより 61 歳でご逝去されました。少し前から体調をくずされ加療中であると伺っていましたが、突然の訃報に言葉を失いました。

青野さんとは同学年でゴルフ愛好会に所属していました。当時のゴルフ愛好会は試合指向と言うよりゴルフ好きな人の集まりでしたが、青野さんは体育会系のゴルフを展開していました。柔和な顔に不釣り合いな筋肉質の体躯をしており、いつもスティックに体を鍛えていました。ドライバーショットはどこまでも伸びていき 70 台で回ってくることも多く、愛好会では屈指の



実力者でした。当時のゴルフ愛好会には 8 回生も多く所属しており、大学では物静かな青野さんも

ゴルフ愛好会の行事ではいつも楽しそうにしていました。練習場では同級生や先輩とスウィング理論についていつも熱く議論していました。写真は青野さん(左奥)と四国でゴルフをした時のものです。

青野さんは昭和 60 年に医学部を卒業後、福岡大学医学部整形外科に入局されました。医局のローテーションで福岡大学病院、三信会原病院、大分赤十字病院、総合脊損センター、掖済会門司病院、福岡大学筑紫病院に勤務され、その後 6 年ほど東北北海道病院に勤務されました。福岡に戻られた後は新栄会病院、松永病院を経て恵光会原病院整形外科に勤務されていました。職場では他科の医師にも整形外科の処置や治療について丁寧に教えられていたようで青野さんの人柄が偲ばれます。最近お会いできていなかったことが本当に残念でありませんが、愛車のセリカに乗ってゴルフ場にやってくる青野さんの姿、豪快なスウィングはいつまでも忘れることはありません。青野さんのご冥福を 8 回生およびゴルフ愛好会一同お祈り申し上げます。

久保先生に捧ぐ

福岡大学病院 臨床検査部 講師 松 本 直 通 (14 回生)

14 回生の同期として突然の訃報に接し、ただただ驚き、信じられない思いです。久保先生は学生のころ、同じ卓球部と一緒に汗を流した仲間です。前陣速攻型の卓球スタイルでシェークハンドから繰り出す豪快なドライブを武器に、わが卓球部のエースとして活躍していました。卒業後はほとんど会うこともありませんでしたが、麻酔科医として北九州でクリニックを開業されたと聞いていました。つい数年前の卓球部の OB 会で久しぶりに再会しましたが、その時の二次会では赤坂にある久保先生のいきつけと称する隠れ

家のようなバーに連れて行ってもらい、一緒に他愛のない話でもりあがったことがつい最近のことのようです。ケアマネージャーの資格をとったこと、地域医療への熱い思いを語っておられたことを覚えています。いつも学生の時から飄々として細かいことにとらわれず、人生わが道を行くというスタンスで、昔から久保さんと親しみをこめてよんでいました。人生を謳歌している様子で、昔からアウトドアスポーツを得意とし、バイクを乗りこなしていた姿からは身体の不調など全く感じさせることがなかったのに、もう会えないというこ

とがとても信じられません。実際のところ、どのような経緯であったのか聞き及んでおりませんが、これからまだまだやりたいことがたくさんあったでしょうに、今はただ、久保先生のご冥福を心よりお祈りするばかり

です。

久保さん、今までお世話になりました。どうぞ安らかに。

吉本雅彦君の早逝を悼んで

(医) 緑心会 横山記念病院 院長 横 山 桂 (8 回生)

昨年末に届いた同窓会報で 8 回卒の吉本雅彦君が 8 月 3 日に逝去されていたことを知り愕然とするともに、突然何か大事なものを失ったような寂しさに襲われました。卒業後 30 年余り、殆ど付き合いもありませんでしたが彼の存在は私の心のどこかを占めていたのだろうと思う次第です。

彼の早すぎる死を悼み、追悼文を思い出すままで恐縮ですが書かせていただくことになりました。彼は私の記憶している限り卒業まで殆ど皆勤で通学し、しかも教室での講義は最前列の中央で必ず受ける大変真面目な人でした。ただ照れ屋で人付き合いが苦手だったのかクラスの中で特に親しい友人もいず、集まりにも参加することもなく講義が終わるとさっと帰ってしまうような人でした。私は彼と学籍番号が前後しており、実習その他で一緒になることが多く最後は病院実習でも同じグループでいわば同じ釜の飯を食べ苦楽を共にしました。そういう訳で彼と言葉を交わすことも多く次第に彼と打ち解けるようになっていったと思います。言葉を交わすようになると石頭でも協調性がない人でもなく普段は音楽を聴いたり車やスポーツが好きで、休み時間にアイドルが載っているような雑誌をこっそり読んでいたり、当時ヒットしたスチュワーズを題材にした TV 番組の主人公の真似をしたりして実は素直で無邪気なところや茶目っ気もある人でした。

彼のことで印象に残っていることを思い出して書いてみたいと思いますが、病院実習で精神科を回っていたころ彼が担当した患者さんが面接するたびに大げさに顔をしかめると不思議そうに語っていました。しばらくして「あれは衝動という症状らしいっちゃ」と納得したのか、嬉しそうに教えてくれたことがありました。それから小児科を回っている頃患者さんたちに手品の真似事をしてみせたりして楽しそうにコミュニ

ケーションを図っていたことを覚えています。私たちの病院実習のグループは現役、留年組の混成軍でしたが後半には彼が名付け親になってお互いをニックネームで呼び合うほど親しくなりました。親睦を深めようと地下街に集合して天神で飲んだことがあり、彼も参加して楽しい一夜を過ごしたことを覚えています。

彼は卒業後当時の健康管理科に入局されたようですが、その後行政のほうに転身されたようです。一度、天神で行政マンになった彼と偶然遭遇しましたがスーツ姿で颯爽としており臨床医より行政が水にあっていたのかなと思うことでした。その後再び転身され、福大と関連のある病院の人間ドックセンター長を勤められる傍ら、産業医やスポーツ医などでも活躍なさっていたようです。しかしながら、ここ数年 Myeloma を患われ入退院を繰り返しておられたとのこと。がっしりした体躯のスポーツマンで体力もある彼でしたがさぞかし辛かったことと察します。

最後に彼がそのことを知っていたかは分かりませんが私達の病院実習のグループは 5 人で最初に松崎君が心疾患で急逝し、次に蜂谷さんが癌に倒れました。今回吉本君まで逝ってしまい、私と岸 泰至君の二人になってしまいました。

若くして逝った彼らを思うと本当に残念でなりません。再会も果たせず寂しい限りですが彼らとの楽しかった学生時代の思い出をこれからも大事にしていきたいと思っています。

吉本君へ

少し早い旅立ちだったけど今までお疲れ様でした。ゆっくりお休みください。

それから先に行った松ちゃんや蜂ちゃんと会うことがあったら旧交を温めてください。

さようなら。

医局長・医長名簿

(○内の数字は福大医学部卒業回)

平成 28 年 4 月現在

	医 局 長	病棟医長	外 来 医 長
[福 岡 大 学 病 院]			
腫瘍・血液・感染症内科	田 中 俊 裕 ^{①⑦}	正 木 充 生 ^{③⑩}	猪 狩 洋 介 ^{②⑨}
内 分 泌 ・ 糖 尿 病 内 科	田 邊 真 紀 人	寺 脇 悠 一 ^{③①}	元 永 綾 子 ^{②⑦}
循 環 器 内 科	三 浦 伸 一 郎 ^{①①}	杉 原 充 太 ^{②④}	森 井 誠 士 ^{②⑥}
消 化 器 内 科	阿 南 章 ^⑧	田 中 崇	横 山 圭 二 ^{②②}
腎 臓 ・ 膠 原 病 内 科	安 野 哲 彦 ^{②④}	浜 内 亜 希 ^{③⑩}	三 宅 勝 久
血 液 浄 化 セ ン タ ー		笹 富 佳 江 ^⑬	
呼 吸 器 内 科	石 井 寛	松 本 武 格 ^{②②}	廣 田 貴 子
神 經 内 科 ・ 健 康 管 理 科	合 馬 慎 二 ^{②③}	津 川 潤	深 江 治 郎
精 神 神 經 科	吉 良 健 太 郎 ^{②②}	衛 藤 暢 明	黒 岩 健 輔 ^{②③}
〃 (ディケア)			飯 田 仁 志 ^{②③}
小 児 科	井 手 康 二 ^{②②}	藤 田 貴 子 ^{②②}	井 手 口 博 ^{①⑨}
消 化 器 外 科	吉 田 陽 一 郎	佐 藤 啓 介 ^{②⑥}	米 良 利 之 ^{②⑤}
呼 吸 器 ・ 乳 腺 内 分 泌 ・ 小 児 外 科	吉 田 康 浩 ^{②④}	平 塚 昌 文 ^⑬	早 稲 田 龍 一
整 形 外 科	前 山 彰 ^{②⑤}	田 中 潤	木 山 貴 彦 ^{②④}
形 成 外 科	川 上 善 久	大 山 拓 人 ^{②⑥}	森 田 愛
脳 神 經 外 科	安 部 洋 ^{②⑩}	武 村 有 祐 ^{②③}	森 下 登 史
心 臓 血 管 外 科	峰 松 紀 年	助 弘 雄 太	松 村 仁
皮 膚 科	伊 藤 宏 太 郎 ^{②⑥}	大 賀 保 範	柴 山 慶 継 ^{②⑦}
泌 尿 器 科	入 江 慎 一 郎 ^{①⑦}	古 屋 隆 三 郎 ^{②③}	松 崎 洋 吏 ^{②⑦}
産 婦 人 科	城 田 京 子	荒 木 陵 多 ^{②⑧} (産科)	伊 東 裕 子 ^{②②}
〃		阿 南 春 分 ^{②⑨} (婦人科)	
眼 科	梅 田 尚 靖 ^⑧	日 吉 篤 史 ^{②⑦}	有 田 直 子 ^{①⑤}
耳 鼻 咽 喉 科	大 西 克 樹 ^{②⑤}	上 野 哲 子 ^{②④}	佐 藤 晋 ^{③⑩}
放 射 線 科	光 藤 利 通 ^{②⑩}	赤 井 智 春 ^{②⑦}	野々熊 真也 ^{②④}
麻 酔 科	平 田 和 彦 ^{①②}	平 田 和 彦 ^{①②}	柴 田 志 保 ^{②⑥}
歯 科 口 腔 外 科	瀬 戸 美 夏	喜 多 涼 介	近 藤 誠 二
病 理 部	溝 口 幹 朗 ^⑥		
臨 床 検 査 部	松 本 直 通 ^④		
輸 血 部	熊 川 み どり		
救 命 救 急 セ ン タ ー	西 田 武 司 ^{②③}	川 野 恭 雅 ^{③⑩}	
総 合 周 産 期 母 子 医 療 セ ン タ ー		大 田 栄 治 ^{①⑨} (新生児部門)	
		廣 瀬 龍 一 郎 (3階南病棟)	
総 合 診 療 部	武 岡 宏 明 ^{②⑤}	堀 端 謙	鯨 坂 和 彦 ^{②⑦}
東 洋 医 学 診 療 部	久 保 田 正 樹 ^④		
[福 岡 大 学 筑 紫 病 院]			
筑 紫 病 院 (総 医 局 長)	本 多 博 一		
循 環 器 内 科	白 井 和 之 ^⑧	岡 村 圭 祐 ^{②④}	山 本 智 彦 ^{③⑩}
内 分 泌 ・ 糖 尿 病 内 科	※ 工 藤 忠 睦 ^{②③}	阿 部 一 朗	小 林 邦 久
呼 吸 器 内 科	赤 木 隆 紀 ^{②①}	宮 崎 浩 行	原 田 泰 志
消 化 器 内 科	光 安 智 子	高 橋 晴 彦 ^{②⑨}	岸 昌 廣 ^{②⑨}
小 児 科	吉 兼 由 佳 子 ^{①⑨}	山 崎 靖 人 ^{②⑥}	鶴 澤 礼 実
外 科	平 野 公 一 ^{②①}	平 野 由 紀 子 ^{②③}	三 宅 徹 ^{②③}
整 形 外 科	秋 吉 祐 一 郎	櫻 井 真 ^{②⑦}	野 村 智 洋 ^{②⑦}
脳 神 經 外 科	新 居 浩 平 ^{②④}	伊 香 稔	坂 本 王 哉 ^{②⑧}
泌 尿 器 科	平 浩 志 ^{①⑤}	平 浩 志 ^{①⑤}	宮 嶋 哲 匡 ^{①⑨}
眼 科	本 多 博 一	佐 々 由 季 生	本 多 博 一
耳 鼻 い ん こ う 科	杉 山 喜 一 ^{③①}	杉 山 喜 一 ^{③①}	樋 口 仁 美
放 射 線 科	山 本 良 太 郎 ^{②②}		
救 急 科	松 尾 邦 浩 ^⑧		
麻 酔 科	生 野 慎 二 郎 ^⑧		
病 理 部	原 岡 誠 司		

※印は循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長

教育職員人事 (講師以上)

(○内の数字は福大医学部卒業回)
[平成 27.10.2 ~ 28.4.1]

区分	所属	資格	氏名	発令日	摘要
退 職	筑紫外科	准教授	山本 聡	27.12.31	
	脳神経外科	講師	勝田 俊郎	27.12.31	
	耳鼻咽喉科学	教授	中川 尚志	27.11.30	
	整形外科	教授	内藤 正俊	28.3.31	選定年
	衛生・公衆衛生学	教授	守山 正樹	28.3.31	
	消化器内科学	准教授	青柳 邦彦	28.3.31	
	衛生・公衆衛生学	准教授	谷原 真一	28.3.31	
	消化器内科	准教授	早田 哲郎 ⑪	28.3.31	
	総合周産期母子医療センター	准教授	吉里 俊幸	28.3.31	
	筑紫整形外科	准教授	城島 宏 ⑭	28.3.31	
	微生物・免疫学	講師	波部 重久	28.3.31	
	先端医療科学総合研究所	講師	緒方 繁憲	28.3.31	
	社会医学系総合研究室	講師	吉永 一彦	28.3.31	
	医学部 R I 施設	講師	高見 昇	28.3.31	
	消化器外科	講師	橋本 竜哉 ⑰	28.3.31	
	放射線診断部	講師	野元 論	28.3.31	
	呼吸器内科	講師	内野 順治	28.3.31	
	消化器外科	講師	武野 慎祐	28.3.31	
	筑紫耳鼻いんこう科	講師	山野 貴史 ⑱	28.3.31	
	精神神経科	講師	永井 宏 ⑲	28.3.31	
整形外科	講師	毛利 正玄 ⑳	28.3.31		
消化器外科学	講師	谷村 修	28.3.31		
整形外科	講師	石河 利之 ㉑	28.3.31		
脳神経外科学	講師	大川 将和	28.3.31		
採 用	消化器外科学	教授	長谷川 傑	28.4.1	
	整形外科	教授	山本 卓明	28.4.1	
	衛生・公衆衛生学	教授	有馬 久富	28.4.1	
	福岡大学博多駅クリニック	教授	仁位 隆信	28.4.1	
	歯科口腔外科学	准教授	近藤 誠二	28.4.1	
	筑紫眼科	准教授	大島 裕司	28.4.1	
	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	講師	早稲田 龍一	28.4.1	
	脳神経外科	講師	竹本 光一郎	28.4.1	
	総合周産期母子医療センター	講師	村田 将春	28.4.1	
	脳神経外科学	講師	八木 謙次	28.4.1	
	寄付研究連携呼吸睡眠医学講座	講師	吉村 力	28.4.1	
	消化器内科	講師	田中 崇	28.4.1	
呼吸器内科	講師	串間 尚子	28.4.1		
昇 格	心臓血管外科学	教授	和田 秀一 ⑬	28.4.1	
	医学系研究・生命医療倫理部門	准教授	今泉 聡 ⑮	28.4.1	
	消化器内科学	准教授	釈迦堂 敏	28.4.1	
	産科婦人科学	准教授	城田 京子	28.4.1	
	医学教育推進講座	准教授	八尋 英二 ⑯	28.4.1	
	呼吸器内科	准教授	石井 寛	28.4.1	
	健康管理センター診療所	准教授	森戸 夏美 ⑰	28.4.1	
	循環器内科	講師	北島 研 ⑳	28.4.1	
	リハビリテーション部	講師	鎌田 聡	28.4.1	
	リハビリテーション部	講師	藤見 幹太 ㉑	28.4.1	
	病理学	講師	古賀 佳織 ㉒	28.4.1	
	薬理学	講師	田頭 秀章	28.4.1	
内分泌・糖尿病内科	講師	田邊 真紀人	28.4.1		



TOP TEN Medical Students (ΦBK Students) 2016.3.23 Los Celebrities

名簿過誤訂正

会員名簿第 11 号に誤りがありましたので下記のとおり訂正させていただきます。関係者の方々に多大なるご迷惑をおかけいたしました。お詫び申し上げます。

・第 5 回生卒業生 41 ページ 木村 博 先生 勤務先電話番号「0940-452-0145」→「0930-28-9555」

事務局からのご連絡

6 回生の緒方健一先生が、第 4 回日本医師会赤ひげ大賞を受賞されています。同窓の先生よりご連絡いただきました。緒方健一先生おめでとうございます。今年 4 月から研修をスタートされた先生、勤務先が変わられた先生は同窓会へお知らせ下さい。先輩方が歓迎会や講演会などの連絡を差し上げたいと言われております。会報にあります住所・勤務先連絡票にて事務局までお願いいたします。

編集後記

2014年に広報担当理事を大慈弥教授から引き継ぎまして、今年は紙面がカラー採用となり大きく変わりました。本会誌の紙面は2009年にA4版となり、内容も年々充実したものとなってきています。さらに今年はホームページも一新され、新しい情報発信の場となってきています。ホームページの作成採用に関しましては、昨年度からの北島広報担当(21回生)が、諸先輩方と業者も含む数々の難題折衝を乗り越えて掲載実現となりました。今後は会報がウェブサイト上に掲載される事となり、グローバル化を意識した前向きな取り組みであると理解しています。

先日、高木同窓会会長が現在同窓会の会員数が、全国の古くからある医大でプラトーとなる6000人にかかなり近づいたお話をされていました。医学部同窓会も成熟期を迎え、更に今後の長期展望や課題を同窓生皆でフランクに話し合い、解決策を得る時期を迎えているように思います。

文責 小玉 正太 (13回生 広報担当理事)

烏帽子会会報第60号

発行日 平成28年5月15日
 発行人 高木 忠博
 編集人 小玉 正太

発行所 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
 福岡大学医学部同窓会
 電話:092-865-6353(直通)
 092-801-1011(代表) 内線[3032]
 FAX:092-865-9484
 E-mail:eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

印刷所 ロータリー印刷(株)
 福岡市中央区長浜2-1-30
 電話:092-711-7741
 FAX:092-711-7901